

平成25年度 みやざき小中学校学習状況調査 分析結果



目次

I	調査の概要	
1	実施の概要	1
2	学習状況調査の結果	2
3	分析の概要	3
II	各教科の分析結果	
II-1	小学校 各教科の分析	4
	各教科の調査問題の趣旨・内容	4
	学習状況調査の概要	6
1	国語	6
2	社会	9
3	算数	12
4	理科	15
II-2	中学校 各教科の分析	18
	各教科の調査問題の趣旨・内容	18
	学習状況調査の概要	20
1	国語	20
2	社会	23
3	数学	26
4	理科	29
5	英語	32

※ 付録 A層～D層についてもっと知りたい! 35

平成25年8月 宮崎県教育委員会

I 調査の概要

1 実施の概要

調査目的	県内の公立小・中学校及び中等教育学校（前期課程）、特別支援学校の小・中学部における児童生徒の学習の定着状況を把握・分析し、その結果をもとに、学校における学習指導の充実・改善等に役立てる。
実施日	平成25年4月24日(水)・25日(木)
調査対象校	市町村立小学校 237校 ※5年生児童が在籍していない6校（分校を含む）は除く 市町村立中学校 133校 五ヶ瀬中等教育学校（前期課程） 宮崎西高等学校附属中学校 都城泉ヶ丘高等学校附属中学校 特別支援学校2校（小学部2・中学部1） 宮崎大学教育文化学部附属小・中学校
対象学年	小学校第5学年（10,487人）
調査人数	中学校第2学年（10,234人）
調査実施内容	<学習状況調査> ○ 小学校第5学年：国語、社会、算数、理科 ○ 中学校第2学年：国語、社会、数学、理科、英語 ※ 学習指導要領に示されている各教科の目標に即し、それぞれの教科の観点に沿った内容で調査を実施する。

2 学習状況調査の結果

■小学校第5学年の平均正答率及び達成率

		A B全体	A「知識」	B「活用」	全県の階層に含まれる児童生徒の割合			
		全県	全県	全県	A層	B層	C層	D層
平均正答率 (%)	国語	60.3	62.3	52.1	26.2	46.0	22.6	5.2
	社会	72.9	78.7	49.4	56.9	29.5	10.5	3.2
	算数	68.0	72.6	49.5	42.3	41.0	13.7	3.1
	理科	75.3	81.2	51.8	61.8	30.9	6.7	0.7
達成率 (%)	国語	17.9	12.8	29.7	68.3	0.0	0.0	0.0
	社会	56.9	63.8	50.1	100.0	0.0	0.0	0.0
	算数	42.3	46.5	47.5	100.0	0.0	0.0	0.0
	理科	51.5	57.1	30.2	83.4	0.0	0.0	0.0

■中学校第2学年の平均正答率及び達成率

		A B全体	A「知識」	B「活用」	全県の階層に含まれる児童生徒の割合			
		全県	全県	全県	A層	B層	C層	D層
平均正答率 (%)	国語	66.7	65.1	73.3	38.2	45.9	13.6	2.3
	社会	62.0	66.1	49.0	34.9	36.5	21.0	7.5
	数学	60.7	63.4	50.0	34.2	32.8	24.3	8.7
	理科	55.8	62.3	29.8	22.5	38.1	30.6	8.8
	英語	53.7	59.8	29.2	19.1	35.8	35.6	9.5
達成率 (%)	国語	48.1	37.0	63.6	100.0	21.5	0.0	0.0
	社会	48.7	48.2	40.2	100.0	37.7	0.0	0.0
	数学	40.1	39.0	52.6	100.0	18.0	0.0	0.0
	理科	34.8	44.2	22.8	100.0	32.2	0.0	0.0
	英語	23.9	29.0	24.2	100.0	13.6	0.0	0.0

※ A「知識」とは、主として「知識」に関する問題、B「活用」とは、主として「活用」に関する問題である。

※ 「正答率」とは、各所属の児童生徒ができた問題数（正答数）の割合を示したものである。

「平均正答率」とは、児童生徒の正答率を平均した数値を示したものである。

※ 学習定着状況における「A層・B層・C層・D層」とは、県内の児童生徒の各調査教科における最高点と最低点の範囲を上位の得点から4等分して表示したものである。

※ 「全県の階層に含まれる児童生徒の割合」とは、県全体の各階層に、所属の児童生徒がそれぞれ何%含まれているかを示したものである。

※ 「達成率」とは、「正答率」が「目標値」に達している児童生徒の割合を示したものである。「目標値」とは、教科、設問ごとの「めざす値」の平均を示したものである。

3 分析の概要

□ 小学校の国語、中学校の数学、理科、英語に課題がみられる。

小学校の国語は、達成率（＝正答率が目標値に達している児童の割合）が低い。中学校の数学、理科、英語も同様である。これらの教科は、設問別通過率の低い問題を分析し、児童生徒のつまずきの原因を把握した上で、授業改善の手立てを講じ、今後の指導に生かすことが必要である。

□ 小学校と中学校で、全県の各階層に含まれる児童生徒の割合にばらつきがみられる。

小学校について、全県の各階層に含まれる児童の割合をみると、国語、算数は、B層に含まれる児童の割合が他の教科と比較して高い傾向がみられる。中学校については、国語、社会は、B層に含まれる生徒の割合が、理科、英語は、C層からD層に含まれる生徒の割合が高い傾向がみられる。小・中学校ともに、各教科の学習内容の定着状況を細かく分析し、特にC層とD層の児童生徒に対して、個に応じたきめ細かな指導をより一層行うことが必要である。

Ⅱ 各教科の分析結果

Ⅱ-1 小学校 各教科の分析

各教科の調査問題の趣旨・内容

■ 国語

話す・聞く能力	手紙の書き方や話し合いの進め方が身に付いているかをみる問題。 (例) ■ 時候のあいさつや結びのあいさつを書く。 ■ 自分の立場を明確にして理由を挙げながら話す。
読む能力	書かれている内容を理解するための基礎的・基本的な知識や能力が身に付いているかどうかをみる問題。 (例) ■ 叙述を基に、登場人物の心情をとらえたり、内容を正しく読み取ったりする。 ■ 目的に応じて、文章の要点をとらえる。また、文章の構成を考えながら、筆者の主張を的確に読み取る。
言語についての知識・理解・技能	言語についての基礎的・基本的な知識や能力が身に付いているかどうかをみる問題。 (例) ■ 文脈に即して、漢字の正しい読み書きをする。 ■ 漢字辞典の用法を理解している。 ■ 文脈に即して、慣用句や故事成語を正しく使う。

■ 社会

知識・理解	社会的事象についての基礎的・基本的な知識が身に付いているかどうかをみる問題。 (例) ■ 都道府県の名称や位置について理解している。 ■ 主な地図記号や方位を理解している。
資料活用	社会的事象を観察、調査したり、複数の資料を効果的に活用したりして、必要な情報を読み取ることができるかどうかをみる問題。 (例) ■ 地図やグラフを正しく読み取る。 ■ 課題に応じて、必要な資料を選択して読み取る。
思考・判断・表現	社会的事象の特色や相互の関連について、考えることができるかどうかをみる問題。 (例) ■ 資料から考察し、文章で表現する。 ■ 資料から見つけた根拠を基に、自分の考えをもち、説明する。

■ 算数

技 能	計算をしたり、面積を求めたり、図形を構成したり、数量の関係などを表したり調べたりするなどの技能を身に付けているかどうかをみる問題。 (例) ■小数の加法・減法の計算をする。 ■平行四辺形の作図をする。
知識・理解	数量の意味や表し方、計算の意味、測定の意味、図形の意味及び数量の関係などについて理解しているかどうかをみる問題。 (例) ■四捨五入による概数の表し方を示す。 ■数直線上にある分数の数値を表記する。
数学的な考え方	日常の事象について見通しをもち、筋道を立てて考え表現したり、そのことから考えを深めたりするなど、数学的な考え方の基礎を身に付けているかどうかをみる問題。 (例) ■表から変わり方のきまりを活用して考える。 ■必要な情報を整理し、適切な演算を選択して考える。

■ 理科

知識・理解	自然の事物・現象についての基礎的・基本的な知識が身に付いているかどうかをみる問題。 (例) ■授業で扱う身近な植物の種子や成長のきまり、チョウやバッタの体のつくりや育ち方を理解している。 ■天気によって1日の気温の変化に違いがあることを理解している。
観察・実験の技能	自然の事物・現象について、課題を追究するための観察・実験に必要な技能が身に付いているかどうかをみる問題。 (例) ■温度計の測り方について理解している。 ■方位磁針の使い方、月の高度の見方等の定点観察の方法や、月の動き方について理解している。
思考・表現	自然の事物・現象の共通性や相互のかかわり、性質や変化、規則性についての見方や考え方が身に付いているかどうかをみる問題。 (例) ■ゴムの働きについての見方や考え方をもちことができ、学んだことを活用して自分の考えを表現する。 ■水のゆくえについての見方や考え方をもちことができ、学んだことを活用して考察する。

1 小学校5年:国 語

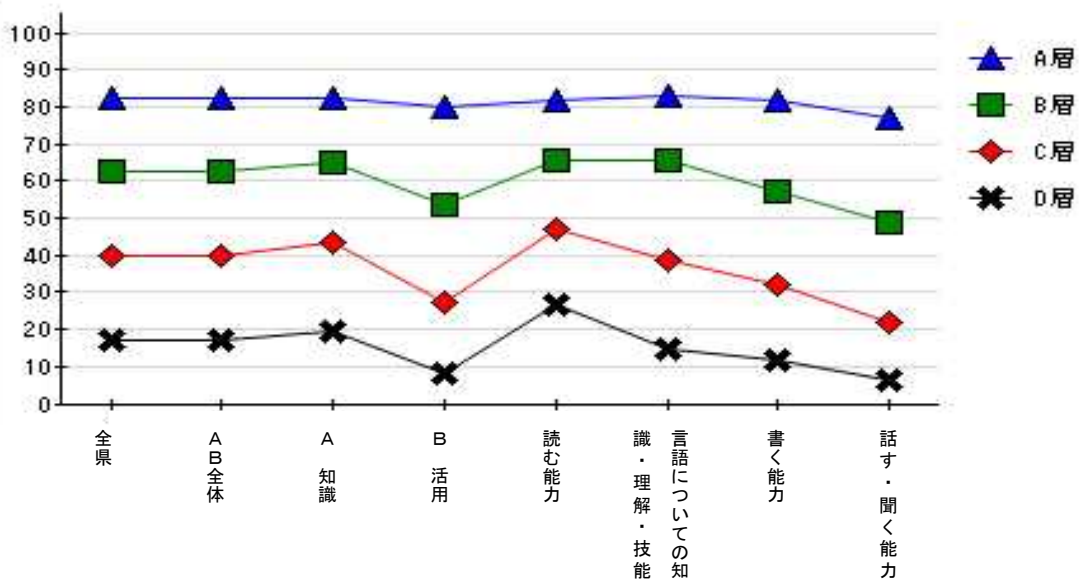
■ 学習状況調査の概要

※数値は、全受験者から1000名を抽出したデータをもとに算出したものです。

□ 学習定着状況(%)

分類・観点・領域			目標値	正答率(%)		全県の階層に含まれる児童生徒の平均正答率			
				全県	平均	A層	B層	C層	D層
平均正答率 (%)	分類	AB全体	77.2	60.3	60.3	82.1	62.6	40.1	17.1
		A 知識	80.5	62.3	62.3	82.6	64.9	43.4	19.3
		B 活用	64.0	52.1	52.1	79.9	53.4	27.2	8.1
	観点	読む能力	81.5	63.0	63.0	81.7	65.3	47.3	26.9
		言語についての知識・理解・技能	79.5	60.7	60.7	83.1	65.8	38.4	14.5
		書く能力	68.3	54.6	54.6	81.7	56.9	32.0	11.5
		話す・聞く能力	57.5	47.0	47.0	77.1	48.8	21.9	6.0
	領域	読むこと	81.5	63.0	63.0	81.7	65.3	47.3	26.9
		伝統的な言語文化と国語の特質	79.5	60.7	60.7	83.1	65.8	38.4	14.5
		書くこと	68.3	54.6	54.6	81.7	56.9	32.0	11.5
		話すこと・聞くこと	57.5	47.0	47.0	77.1	48.8	21.9	6.0
	達成率 (%)	分類	AB全体	-	17.9	17.9	68.3	0.0	0.0
A 知識			-	12.8	12.8	48.0	0.4	0.0	0.0
B 活用			-	29.7	29.7	74.2	21.7	1.1	0.0
観点		読む能力	-	10.2	10.2	36.6	2.5	0.0	0.0
		言語についての知識・理解・技能	-	32.0	32.0	82.4	25.2	0.4	0.0
		書く能力	-	18.1	18.1	49.6	12.4	0.8	0.0
		話す・聞く能力	-	27.2	27.2	60.3	24.1	5.1	0.0
領域		読むこと	-	10.2	10.2	36.6	2.5	0.0	0.0
		伝統的な言語文化と国語の特質	-	32.0	32.0	82.4	25.2	0.4	0.0
		書くこと	-	18.1	18.1	49.6	12.4	0.8	0.0
		話すこと・聞くこと	-	27.2	27.2	60.3	24.1	5.1	0.0

□ 平均正答率分布状況



■ 設問別解答状況一覧

□ 設問別通過率(%)

「A層・B層・C層・D層」は、国語の「正答率」を基に上位から4層に分けて表示しています。

結果概要

学習定着状況(%)

◇「分類A」=「知識」に関する問題、「分類B」=「活用」に関する問題

◇「正答率」=できた問題数÷全問題数×100(%)

◇「児童生徒の正答した割合」=(各層ごとの)設問ができた生徒数÷全生徒数×100(%)

問題番号			出題内容	領域	観点	分類	正答率(%)		全県の階層に含まれる児童生徒の正答した割合(%)				A層-D層	児童生徒の無解答の割合(%)
通し番号	大問	小問					全県	平均	A層	B層	C層	D層		
1	1	1	適語補充	読むこと	読む能力	A	92.8	92.8	99.6	95.9	88.1	56.9	42.7	0.0
2	1	2	心情の理解	読むこと	読む能力	A	87.1	87.1	98.5	93.4	71.9	50.0	48.5	0.4
3	1	3	内容の理解	読むこと	読む能力	A	64.5	64.5	90.1	66.6	47.4	5.2	84.9	7.1
4	1	4	内容の理解	読むこと	読む能力	A	91.3	91.3	99.2	96.9	83.0	44.8	54.4	2.9
5	1	5	内容の理解	読むこと	読む能力	A	65.6	65.6	92.4	69.7	39.1	25.9	66.5	1.9
6	2	1	接続語の選択	読むこと	読む能力	A	84.6	84.6	98.9	91.1	67.6	39.7	59.2	0.0
7	2	2	文章構成の理解	読むこと	読む能力	A	60.5	60.5	85.5	62.9	38.3	24.1	61.4	1.0
8	2	3	指示する内容の理解	読むこと	読む能力	A	9.3	9.3	22.9	6.6	2.4	0.0	22.9	4.3
9	2	4	内容の理解	読むこと	読む能力	A	23.9	23.9	56.1	19.6	4.0	1.7	54.4	8.3
10	2	5	内容の理解	読むこと	読む能力	A	50.1	50.1	73.7	50.7	31.2	20.7	53.0	3.1
11	3	1	筆順の理解	伝統的な言語文化と国語の特質	言語についての知識・理解・技能	A	20.7	20.7	39.7	19.2	7.9	3.4	36.3	0.2
12	3	2-(1)	漢字の書き	伝統的な言語文化と国語の特質	言語についての知識・理解・技能	A	55.3	55.3	89.3	62.7	18.2	1.7	87.6	8.7
13	3	2-(2)	漢字の書き	伝統的な言語文化と国語の特質	言語についての知識・理解・技能	A	68.2	68.2	97.7	78.4	31.6	10.3	87.4	10.0
14	3	2-(3)	漢字の読み	伝統的な言語文化と国語の特質	言語についての知識・理解・技能	A	80.7	80.7	98.5	90.3	59.7	12.1	86.4	4.3
15	3	2-(4)	漢字の読み	伝統的な言語文化と国語の特質	言語についての知識・理解・技能	A	85.4	85.4	97.3	93.4	69.6	34.5	62.8	1.8
16	3	3	慣用語の使い方	伝統的な言語文化と国語の特質	言語についての知識・理解・技能	A	77.4	77.4	96.6	83.3	58.1	25.9	70.7	1.2
17	3	4	漢字辞典の用法	伝統的な言語文化と国語の特質	言語についての知識・理解・技能	A	45.3	45.3	74.4	44.7	24.1	10.3	64.1	2.7
18	3	5-(1)	主語の理解	伝統的な言語文化と国語の特質	言語についての知識・理解・技能	A	59.5	59.5	78.6	63.7	40.3	20.7	57.9	2.7
19	3	5-(1)	述語の理解	伝統的な言語文化と国語の特質	言語についての知識・理解・技能	A	69.8	69.8	88.2	75.1	52.2	20.7	67.5	2.8
20	3	5-(2)	ローマ字の知識	伝統的な言語文化と国語の特質	言語についての知識・理解・技能	A	44.6	44.6	70.6	47.0	22.1	5.2	65.4	6.4
21	4	1-A	手紙の前文の理解	書くこと	書く能力	B	27.1	27.1	56.9	22.7	10.3	3.4	53.5	0.9
22	4	1-C	手紙の末文の理解	書くこと	書く能力	B	86.1	86.1	98.5	94.6	69.6	31.0	67.5	0.9
23	4	2	目的に応じて手紙の内容の中心を書くこと	書くこと	書く能力	B	50.6	50.6	89.7	53.4	16.2	0.0	89.7	9.4
24	5	1	自分の立場を明確にして理由を挙げながら話すこと	話すこと・聞くこと	話す・聞く能力	B	50.8	50.8	81.3	52.4	26.1	6.9	74.4	5.5
25	5	2	司会や提案などの役割を果たしながら話し合うこと	話すこと・聞くこと	話す・聞く能力	B	43.3	43.3	72.9	45.2	17.8	5.2	67.7	9.3

■ 課題等

話すこと・聞くこと

- ◆ 自分の立場を明確にして理由を挙げながら話すことについては、学習内容の定着に課題がみられる。また、話し合いの司会の進め方も学習内容の定着に課題がみられる。

読むこと・書くこと

- ◇ 状態を表す副詞を補充する問題は、学習内容が定着している傾向がみられる。
- ◇ 文章中の主語を指摘する問題は、学習内容が定着している傾向がみられる。
- ◆ 指示語の内容の理解や要約については、学習内容の定着に課題がみられる。
- ◆ 手紙の前文の理解については、学習内容の定着に課題がみられる。

伝統的な言語文化と国語の特質

- ◇ 慣用句の使い方は、学習内容が定着している傾向がみられる。
- ◆ ローマ字表記については、学習内容の定着に課題がみられる。
- ◆ 漢字の読み書きは、定着率に開きがある傾向がみられる。
- ◆ 漢字辞典の用法については、学習内容の定着に課題がみられる。

◇…よくできている点 ◆…課題がみられる点 下線部はB問題に関するものです。

■ 指導改善のポイント

話すこと・聞くこと

- 意見を発表する際に、理由を挙げながら発表させることが重要である。
- 全員が話し合いの司会や記録等の経験ができるような言語活動を設定し、話し合いの進め方やメモの取り方などを指導することが大切である。

読むこと・書くこと

- 叙述を基に、登場人物の心情や場面の変化をとらえる指導の充実が重要である。
- 手紙を書く活動を設定し、時候のあいさつなどに留意しながら指導することが大切である。

伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

- 「話すこと・聞くこと」、「読むこと・書くこと」の学習を通して、慣用句や故事成語に親しみをもたせ、実際の言語生活に用いるよう指導することが大切である。
- 主語と述語の関係や、修飾と被修飾の関係を明確に理解させる。文節どうしの係り受けや、主語を意識した読み取りなどの指導が必要である。

■ 学力向上のためのヒント（おうちの方へ）

- 文の中での言葉の働きや漢字の使われ方などに注意させながら、新聞や本などを読ませてみましょう。気に入った文については、ノートに書き写させると、作文にも役立ちます。
- ローマ字は、英語の書く力にも関連していきます。興味のあるものや自分の名前などをローマ字で書かせることで、少しずつ慣れさせていきましょう。街中にあるローマ字で書かれた看板などを、声に出して一緒に読んでいくのも効果的です。

2 小学校5年:社 会

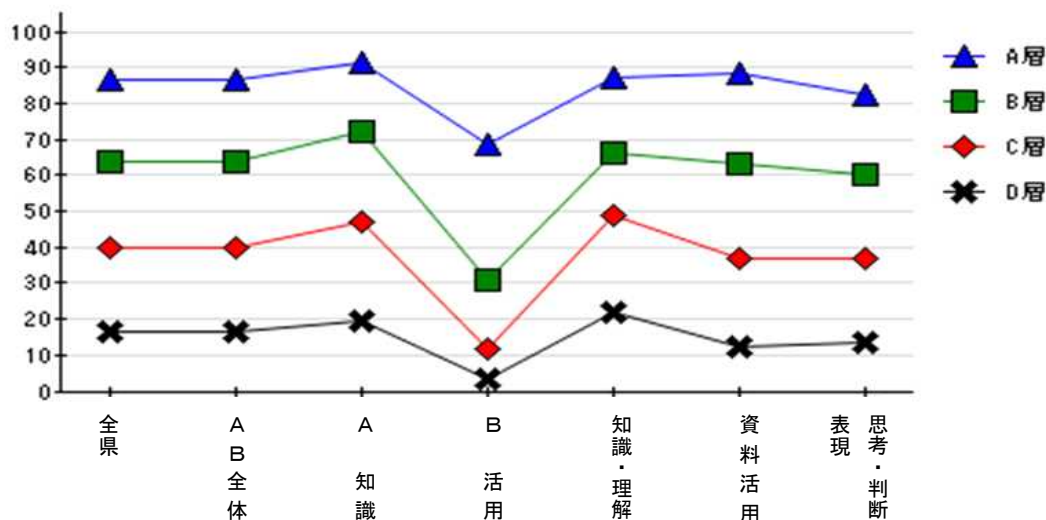
■ 学習到達度調査の概要

※数値は、全受験者から1000名を抽出したデータをもとに算出したものです。

□ 学習定着状況(%)

分類・観点・領域			目標値	正答率(%)		全県の階層に含まれる児童生徒の平均正答率			
				全県	平均	A層	B層	C層	D層
平均正答率 (%)	分類	A B全体	76.0	72.9	72.9	86.7	63.9	40.1	16.3
		A 知識	80.0	78.7	78.7	91.3	72.2	47.2	19.5
		B 活用	60.0	49.4	49.4	68.5	30.7	11.9	3.4
	観点	知識・理解	81.3	74.6	74.6	87.3	66.1	48.8	21.8
		資料活用	76.4	72.5	72.5	88.2	63.1	36.8	12.0
		思考・判断・表現	68.3	68.5	68.5	82.6	60.1	36.6	13.4
	領域	身近な地域	80.0	78.2	78.2	89.9	70.9	54.5	23.1
		生産や販売の仕事	83.3	91.1	91.1	98.6	93.0	65.6	29.0
		安全を守る工夫	77.5	80.6	80.6	93.0	76.6	47.2	19.4
		県の様子	70.0	63.3	63.3	81.5	50.4	24.3	5.4
		地域の先人	86.7	72.9	72.9	88.9	61.1	41.5	14.0
		人々の生活	60.0	47.1	47.1	66.7	29.0	10.8	3.2
達成率 (%)	分類	A B全体	-	56.9	56.9	100.0	0.0	0.0	0.0
		A 知識	-	63.8	63.8	97.8	27.8	0.0	0.0
		B 活用	-	50.1	50.1	77.8	19.1	2.5	0.0
	観点	知識・理解	-	45.8	45.8	71.3	19.5	2.4	0.0
		資料活用	-	51.5	51.5	85.7	12.5	0.0	0.0
		思考・判断・表現	-	45.1	45.1	71.4	17.3	1.6	0.0
	領域	身近な地域	-	63.7	63.7	86.1	46.3	17.1	0.0
		生産や販売の仕事	-	82.6	82.6	96.4	82.4	36.6	3.2
		安全を守る工夫	-	53.6	53.6	75.5	36.7	5.7	0.0
		県の様子	-	40.0	40.0	66.2	10.5	0.0	0.0
		地域の先人	-	48.4	48.4	72.1	23.0	12.2	0.0
		人々の生活	-	46.8	46.8	71.8	20.4	6.5	0.0

□ 平均正答率分布状況



■ 設問別解答状況一覧

□ 設問別通過率(%)

「A層・B層・C層・D層」は、社会の「正答率」を基に上位から4層に分けて表示しています。

結果概要

学習定着状況 (%)

◇ 「分類A」= 「知識」に関する問題、「分類B」= 「活用」に関する問題

◇ 「正答率」= できた問題数÷全問題数×100 (%)

◇ 「児童生徒の正答した割合」= (各層ごとの) 設問ができた生徒数÷全生徒数×100 (%)

問題番号			出題内容	領域	観点	分類	正答率(%)		全県の階層に含まれる児童生徒の正答した割合(%)				A層-D層	児童生徒の無解答の割合(%)
通し番号	大問	小問					全県	平均	A層	B層	C層	D層		
1	1	1-(1)	地図の読み取り	身近な地域	知識・理解	A	88.7	88.7	96.8	86.9	69.1	32.3	64.5	1.1
2	1	1-(2)	地図の読み取り	身近な地域	知識・理解	A	88.1	88.1	97.8	84.7	65.0	29.0	68.8	0.9
3	1	2-(1)	地図の読み取り	身近な地域	知識・理解	A	78.3	78.3	90.6	70.6	50.4	32.3	58.3	0.4
4	1	2-(2)	地図の読み取り	身近な地域	知識・理解	A	61.7	61.7	75.5	47.9	42.3	16.1	59.4	0.4
5	1	3	地図の読み取り	身近な地域	資料活用	A	66.7	66.7	83.8	49.8	39.0	22.6	61.2	1.6
6	1	4-(1)(2)(3)	地図の読み取り	身近な地域	思考・判断・表現	A	85.6	85.6	95.1	85.3	61.0	6.5	88.6	1.1
7	2	1	販売の仕事	生産や販売の仕事	思考・判断・表現	A	89.4	89.4	98.1	91.1	59.3	25.8	72.3	1.0
8	2	2	販売の仕事	生産や販売の仕事	思考・判断・表現	A	94.1	94.1	99.3	97.1	74.8	41.9	57.4	1.3
9	2	3	販売の仕事	生産や販売の仕事	資料活用	A	89.7	89.7	98.5	90.7	62.6	19.4	79.1	2.1
10	3	1-(1)	事故や事件から守る仕事	安全を守る工夫	資料活用	A	89.0	89.0	98.6	89.5	60.2	16.1	82.5	0.8
11	3	1-(2)	事故や事件から守る仕事	安全を守る工夫	資料活用	A	73.1	73.1	89.3	64.9	34.1	3.2	86.1	0.9
12	3	2	事故や事件から守る仕事	安全を守る工夫	資料活用	A	78.1	78.1	94.0	71.6	30.9	29.0	65.0	1.9
13	3	3-(1)(2)(3)	事故や事件から守る仕事	安全を守る工夫	知識・理解	A	82.4	82.4	90.1	80.5	63.4	29.0	61.1	0.3
14	4	1-(1)	都道府県の位置と名称	県の様子	知識・理解	A	54.3	54.3	74.1	39.3	9.8	6.5	67.6	4.1
15	4	1-(2)	都道府県の位置と名称	県の様子	知識・理解	A	74.8	74.8	87.8	66.1	48.8	19.4	68.4	1.9
16	4	2-(1)	県の特徴	県の様子	資料活用	A	82.1	82.1	96.1	77.0	48.8	0.0	96.1	3.0
17	4	2-(2)	県の特徴	県の様子	資料活用	A	65.4	65.4	86.2	50.8	18.7	3.2	83.0	3.3
18	5	1	地域の発展に尽くした人々	地域の先人	知識・理解	A	68.3	68.3	85.4	52.7	41.5	9.7	75.7	4.0
19	5	2-(1)	地域の発展に尽くした人々	地域の先人	資料活用	A	78.1	78.1	90.5	72.2	48.0	22.6	67.9	2.8
20	5	2-(2)	地域の発展に尽くした人々	地域の先人	資料活用	A	72.3	72.3	90.8	58.5	35.0	9.7	81.1	3.0
21	6	1	電気の確保	人々の生活	資料活用	B	43.8	43.8	61.2	27.2	13.0	3.2	58.0	2.5
22	6	2	電気の確保	人々の生活	思考・判断・表現	B	47.2	47.2	67.0	29.1	10.6	0.0	67.0	8.2
23	6	3	電気の確保	人々の生活	思考・判断・表現	B	50.4	50.4	71.9	30.7	8.9	6.5	65.4	7.2
24	7	1	特色ある地域の人々の生活	県の様子	資料活用	B	59.2	59.2	80.6	42.2	14.6	3.2	77.4	7.1
25	7	2	特色ある地域の人々の生活	県の様子	思考・判断・表現	B	44.3	44.3	63.9	27.2	4.9	0.0	63.9	11.6

■ 課題等

身近な地域

- ◇ 地図記号に関する問題は、いずれも正答率が高い傾向がみられる。
- ◆ 地図上の方位に関する問題は、八方位に関して学習内容の定着に課題がみられる。

生産や販売の仕事

- ◇ 領域別の平均正答率が高く、学習内容が定着している傾向がみられる。

安全を守る工夫

- ◇ 課題に応じて資料を選択する問題は、正答率が高い傾向がみられる。

県の様子

- ◆ 都道府県の名称と位置に関する問題や地図索引に関する問題は、いずれも領域の目標値を下回り、学習内容の定着に課題がみられる。

地域の先人

- ◆ 郷土の偉人に関する問題の正答率は、経年比較でみると大きく上回っており、改善が図られている傾向がみられる。

人々の生活

- ◆ グラフの変化を読み取る問題や2つのグラフを関連付けて考える問題は、正答率が目標値を下回り、学習内容の定着に課題がみられる。

◇…よくできている点 ◆…課題がみられる点 下線部はB問題に関するものです。

■ 指導改善のポイント

身近な地域

- 方位や主な地図記号の知識・理解について、確実な定着を図るとともに、それらを活用して地図を読み取ったり、地図に表したりする活動を重視することが重要である。

生産や販売の仕事

- 見学や調査活動を通して、働く人の様子を具体的に調べる学習を一層重視する必要がある。

安全を守る工夫

- 見学や調査活動を重視するとともに、課題解決のために資料を収集、選択しながら、情報を適切に読み取る学習を一層充実させる必要がある。

県の様子

- 地図索引を活用しながら、都道府県の名称と位置を地図帳で確かめ、調べた内容を白地図に書き表す活動を繰り返し行うことが重要である。

地域の先人

- 地域の発展に尽くした先人の業績について、博物館や郷土資料館などを活用し、先人の工夫や努力などを具体的に調べる学習を重視する必要がある。

人々の生活

- 具体的な社会的事象と資料を関連付け、社会的事象の要因を裏付けたり、類推したりする学習を重視するとともに、自分の考えや立場を、根拠となる事実や資料を基に、図や文章で表現する学習場面を授業に設けることが大切である。

■ 学力向上のためのヒント（おうちの方へ）

- 新聞やテレビなどで話題になっていることについて話し合ったり、お互いの考えを出し合ったりしてみましょう。
- 博物館や郷土資料館などを活用する機会を増やし、社会科の学習に関する興味を高めましょう。
- 都道府県の名称と位置など、基本的な内容は繰り返し学習させましょう。

3 小学校5年:算 数

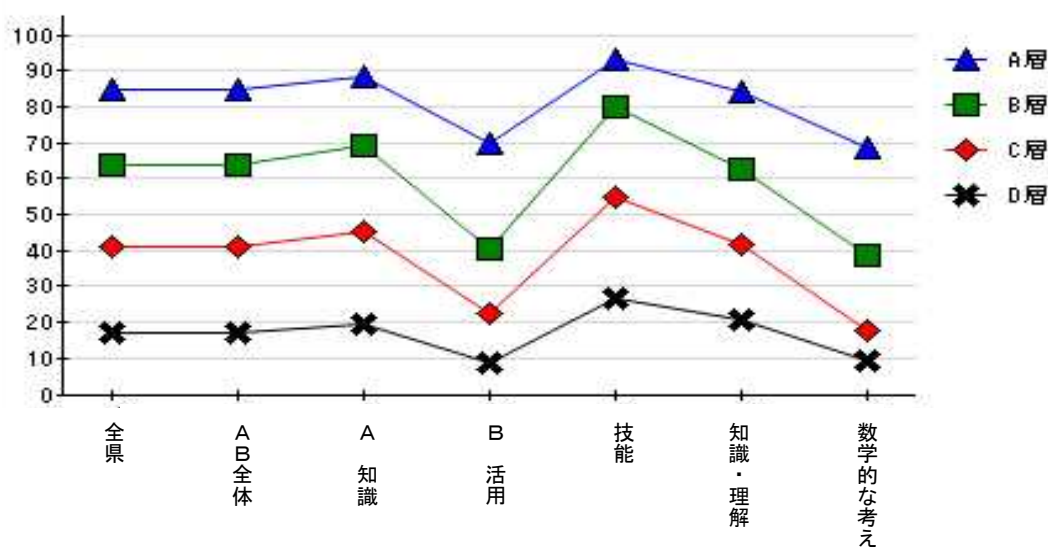
■ 学習状況調査の概要

※数値は、全受験者から1000名を抽出したデータをもとに算出したものです。

□ 学習定着状況(%)

分類・観点・領域			目標値	正答率(%)		全県の階層に含まれる児童生徒の平均正答率				
				全県	平均	A層	B層	C層	D層	
平均正答率 (%)	分類	A B全体	76.0	68.0	68.0	84.7	63.5	40.9	17.3	
		A 知識	80.0	72.6	72.6	88.4	69.3	45.5	19.5	
		B 活用	60.0	49.5	49.5	69.9	40.6	22.4	8.4	
	観点	技能	81.5	79.9	79.9	92.9	80.0	54.7	26.9	
		知識・理解	80.0	66.9	66.9	84.1	62.4	41.9	20.8	
		数学的な考え	60.8	46.7	46.7	68.4	38.4	17.6	9.4	
	領域	数と計算	73.6	61.6	61.6	79.7	55.6	37.1	16.8	
		量と測定	76.3	61.4	61.4	81.3	56.6	29.5	16.4	
		図形	79.0	73.3	73.3	89.7	71.8	44.3	16.3	
		数量関係	78.0	78.4	78.4	89.1	78.8	56.4	36.3	
	達成率 (%)	分類	A B全体	-	42.3	42.3	100.0	0.0	0.0	0.0
			A 知識	-	46.5	46.5	93.5	17.1	0.0	0.0
B 活用			-	47.5	47.4	80.1	31.0	6.3	0.0	
観点		技能	-	50.0	50.0	83.7	37.9	0.6	0.0	
		知識・理解	-	24.8	24.8	54.0	6.3	0.0	0.0	
		数学的な考え	-	35.0	35.0	69.2	15.8	0.6	0.0	
領域		数と計算	-	25.3	25.3	57.2	4.2	0.0	0.0	
		量と測定	-	20.8	20.8	42.1	8.4	0.6	0.0	
		図形	-	62.2	62.2	90.6	57.2	10.6	0.0	
		数量関係	-	74.0	74.0	93.6	76.5	26.3	12.5	

□ 平均正答率分布状況



■ 設問別解答状況一覧

□ 設問別通過率(%)

「A層・B層・C層・D層」は、算数の「正答率」を基に上位から4層に分けて表示しています。

結果概要

学習定着状況 (%)

◇ 「分類A」= 「知識」に関する問題、「分類B」= 「活用」に関する問題

◇ 「正答率」= できた問題数 ÷ 全問題数 × 100 (%)

◇ 「児童生徒の正答した割合」= (各層ごとの) 設問ができた生徒数 ÷ 全生徒数 × 100 (%)

問題番号			出題内容	領域	観点	分類	正答率(%)		全県の階層に含まれる児童生徒の正答した割合(%)				A層-D層	児童生徒の無解答の割合(%)
通し番号	大問	小問					全県	平均	A層	B層	C層	D層		
1	1	(1)	小数の減法の計算	数と計算	技能	A	78.2	78.2	92.6	79.1	51.3	6.3	86.3	0.6
2	1	(2)	3位数÷2位数の計算	数と計算	技能	A	84.3	84.3	94.7	85.6	65.6	18.8	75.9	1.2
3	1	(3)	小数×整数	数と計算	知識・理解	A	65.8	65.8	83.7	61.9	38.8	12.5	71.2	0.4
4	1	(4)	四捨五入による概数の表し方	数と計算	知識・理解	A	44.6	44.6	73.3	30.9	11.3	3.1	70.2	1.3
5	1	(5)	分数の意味	数と計算	知識・理解	A	54.3	54.3	82.3	44.9	14.4	0.0	82.3	4.2
6	1	(6)	分数の差の計算	数と計算	技能	A	93.0	93.0	96.6	95.3	86.3	46.9	49.7	1.5
7	1	(7)	億と兆の大小関係	数と計算	知識・理解	A	95.2	95.2	98.6	96.7	89.4	56.3	42.3	1.5
8	1	(8)	四則の混合した計算	数と計算	知識・理解	A	50.3	50.3	66.9	40.5	35.0	34.4	32.5	4.4
9	2	(1)	分度器を使つての角の大きさの測定	量と測定	技能	A	66.0	66.0	86.7	60.2	35.6	15.6	71.1	0.7
10	2	(2)	L字型の複合図形の面積	量と測定	技能	A	59.2	59.2	86.2	53.7	11.9	3.1	83.1	2.0
11	3	(1)	およその面積	量と測定	知識・理解	A	68.0	68.0	85.3	64.4	40.0	21.9	63.4	1.2
12	3	(2)	およその面積	量と測定	数学的な考え	A	52.4	52.4	66.9	47.9	30.6	25.0	41.9	3.2
13	4	(1)	平行四辺形の理解	図形	知識・理解	A	63.1	63.1	79.5	59.5	36.3	21.9	57.6	5.2
14	4	(2)	平行四辺形のかき方	図形	技能	A	66.6	66.6	87.1	64.2	28.8	9.4	77.7	4.2
15	5	(1)	球の形	図形	知識・理解	A	87.1	87.1	97.0	87.9	69.4	31.3	65.7	0.9
16	5	(2)	面と辺の平行	図形	知識・理解	A	73.9	73.9	89.9	74.4	42.5	6.3	83.6	1.6
17	5	(3)	直方体の展開図	図形	数学的な考え	A	76.0	76.0	95.2	73.0	44.4	12.5	82.7	3.4
18	6	(1)	折れ線グラフの読み取り	数量関係	技能	A	95.4	95.4	97.9	94.9	91.3	87.5	10.4	0.1
19	6	(2)	折れ線グラフの読み取り	数量関係	技能	A	83.0	83.0	95.2	86.3	51.3	31.3	63.9	0.4
20	7		資料の整理	数量関係	技能	A	80.8	80.8	93.6	84.0	50.6	15.6	78.0	2.4
21	8	(1)	変わり方を調べて	数量関係	技能	B	92.1	92.1	98.6	96.3	74.4	34.4	64.2	1.9
22	8	(2)	変わり方を調べて	数量関係	数学的な考え	B	40.6	40.6	60.2	32.6	14.4	12.5	47.7	3.4
23	9	(1)ア	実生活の場面における活用	数と計算	数学的な考え	B	53.0	53.0	81.1	43.3	11.9	6.3	74.8	6.3
24	9	(1)求め方	実生活の場面における活用	数と計算	数学的な考え	B	37.2	37.2	66.2	23.7	1.9	0.0	66.2	12.8
25	9	(2)	実生活の場面における活用	数と計算	数学的な考え	B	21.2	21.2	40.7	10.0	2.5	0.0	40.7	9.5

■ 課題等

数と計算

- ◇ 億と兆の大小関係、分数の差の計算については、正答率が高く、学習内容が定着している傾向がみられる。
- ◆ 四則の混合した計算の順序に関する問題については、正答率が低く、学習内容の定着に課題がみられる。

数量関係

- ◇ 折れ線グラフの読み取りに関する問題については、正答率が高く、学習内容が定着している傾向がみられる。
- ◆ 表を基に変わり方のきまりを活用して、数値を求める問題については、正答率が低く、課題がみられる。

量と測定

- ◇ 身の回りの事象のおよその面積に関する問題については、昨年度より正答率が上がり、学習内容の定着が進んでいると考えられる。
- ◆ およその面積を求める根拠となる式を考える問題については、正答率が低く、学習内容の定着に課題がみられる。

図形

- ◇ 球の形に関する問題については、正答率が高く、学習内容が定着している傾向がみられる。
- ◆ 平行四辺形をかくことができる根拠（定義）に関する問題では、正答率が低く、学習内容の定着に課題がみられる。

◇…よくできている点 ◆…課題がみられる点 下線部はB問題に関するものです。

■ 指導改善のポイント

数と計算

- 計算のきまりや順序についての理解を深め、技能の習熟を図るとともに、分数や概数を数直線上に表すなど、数の大きさを実感させるように指導することが必要である。

数量関係

- 数量の変化を読み取る活動において、特徴や傾向を発表し合う場を設定し、言葉、数、式、図、表、グラフを用いて説明できるようにすることが重要である。

量と測定

- 身の回りにおける様々な具体物の大きさを調べ、面積を求めたり、確かめたりする活動を積極的に取り入れ、量の大きさについての感覚を豊かにするとともに、数と計算や数量関係、図形の領域との関連にも配慮することが重要である。

図形

- 図形に関する用語やその意味、図形の性質について、基本的な知識・技能の確実な定着を図り、図形の観察や構成などの活動を通して、図形についての感覚を豊かにすることが重要である。

■ 学力向上のためのヒント（おうちの方へ）

- 算数は、計算の練習を繰り返すことが大切です。短い時間にできるだけたくさんの問題が解けるように、時間を決めて問題を解かせ、計算力を鍛えましょう。
- 日常生活や買い物の場面で、およその値段を考えさせましょう。
- ものを分ける際に分数を使うなど、学習したことを活用する態度を育てましょう。

4 小学校5年:理 科

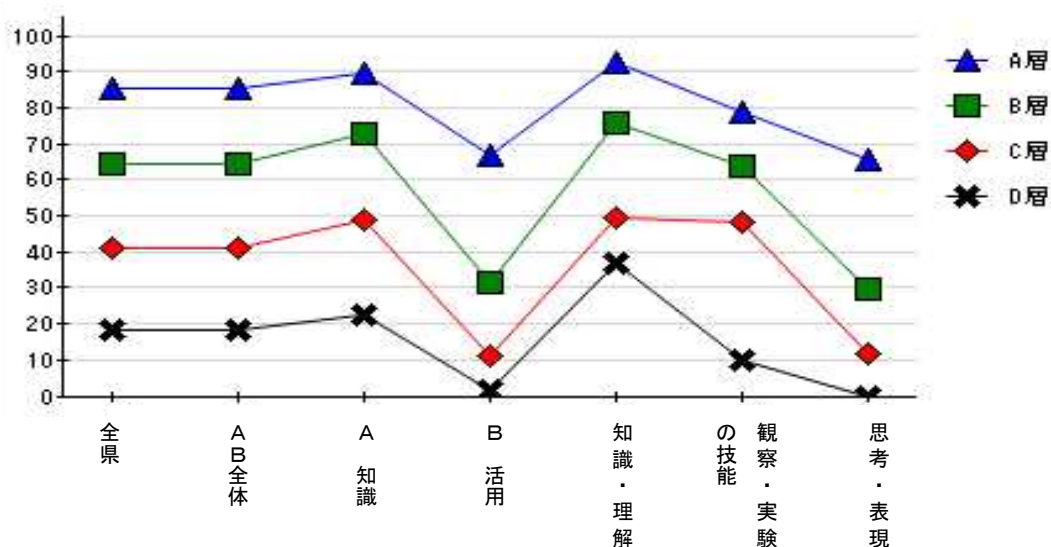
■ 学習到達度調査の概要

※数値は、全受験者から1000名を抽出したデータをもとに算出したものです。

□ 学習定着状況(%)

分類・観点・領域			目標値	正答率(%)		全県の階層に含まれる児童生徒の平均正答率			
				全県	平均	A層	B層	C層	D層
平均正答率 (%)	分類	A B全体	77.6	75.3	75.3	85.2	64.4	41.1	18.3
		A 知識	81.5	81.2	81.2	89.7	72.6	48.6	22.4
		B 活用	62.0	51.8	51.8	67.0	31.3	11.2	1.7
	観点	知識・理解	82.3	83.7	83.7	92.6	75.7	49.4	36.7
		観察・実験の技能	79.0	71.6	71.6	79.0	63.9	48.4	10.0
		思考・表現	62.0	49.8	49.8	65.8	29.4	11.9	0.0
	領域	生命・地球(生命)	82.5	74.3	74.3	80.9	67.1	53.3	58.3
		生命・地球(地球)	75.0	71.9	71.9	81.7	61.0	42.7	16.7
		物質・エネルギー(粒子)	81.0	86.1	86.1	96.4	77.9	42.7	20.0
		物質・エネルギー(エネルギー)	73.0	67.8	67.8	82.0	52.1	24.9	0.0
達成率 (%)	分類	A B全体	-	51.5	51.5	83.4	0.0	0.0	0.0
		A 知識	-	57.1	57.1	87.7	9.3	0.0	0.0
		B 活用	-	30.2	30.2	47.1	3.7	0.0	0.0
	観点	知識・理解	-	62.4	62.4	90.2	26.0	0.0	0.0
		観察・実験の技能	-	58.8	58.8	74.7	38.9	19.8	0.0
		思考・表現	-	27.2	27.2	43.9	2.9	0.0	0.0
	領域	生命・地球(生命)	-	50.6	50.6	66.4	32.2	6.2	0.0
		生命・地球(地球)	-	53.4	53.4	79.0	18.7	1.2	0.0
		物質・エネルギー(粒子)	-	63.3	63.3	85.5	37.7	0.0	0.0
		物質・エネルギー(エネルギー)	-	54.3	54.3	79.5	20.5	1.2	0.0

□ 平均正答率分布状況



■ 設問別解答状況一覧

□ 設問別通過率(%)

「A層・B層・C層・D層」は、理科の「正答率」を基に上位から4層に分けて表示しています。

結果概要

学習定着状況 (%)

◇「分類A」=「知識」に関する問題、「分類B」=「活用」に関する問題

◇「正答率」=できた問題数÷全問題数×100 (%)

◇「児童生徒の正答した割合」=(各層ごとの)設問ができた生徒数÷全生徒数×100(%)

問題番号			出題内容	領域	観点	分類	正答率(%)		全県の階層に含まれる児童生徒の正答した割合(%)				A層-D層	児童生徒の無解答の割合(%)
通し番号	大問	小問					全県	平均	A層	B層	C層	D層		
1	1	1	植物の種子	生命・地球(生命)	知識・理解	A	59.5	59.5	68.9	48.0	37.0	0.0	68.9	0.0
2	1	2	虫めがねの使い方	生命・地球(生命)	観察・実験の技能	A	35.4	35.4	41.1	27.8	24.7	0.0	41.1	0.4
3	1	3	植物の育ち方	生命・地球(生命)	知識・理解	A	93.2	93.2	96.5	89.8	81.5	100.0	-3.5	0.1
4	2	1	昆虫の体のつくり	生命・地球(生命)	知識・理解	A	78.4	78.4	88.0	69.3	43.2	50.0	38.0	0.0
5	2	2	昆虫の育ち方	生命・地球(生命)	知識・理解	A	85.9	85.9	93.4	77.8	61.7	100.0	-6.6	0.1
6	2	3	昆虫の育つ環境	生命・地球(生命)	知識・理解	A	93.3	93.3	97.8	90.1	71.6	100.0	-2.2	0.0
7	3	1	気温を測る場所	生命・地球(地球)	観察・実験の技能	A	75.7	75.7	83.6	66.4	54.3	50.0	33.6	0.0
8	3	2	気温の測り方	生命・地球(地球)	観察・実験の技能	A	86.1	86.1	95.9	78.1	45.7	0.0	95.9	0.1
9	3	3	天気による気温の変化	生命・地球(地球)	知識・理解	A	95.7	95.7	98.9	93.9	77.8	100.0	-1.1	0.3
10	4	1	方位磁針の使い方	生命・地球(地球)	観察・実験の技能	A	83.4	83.4	90.5	76.0	60.5	0.0	90.5	0.1
11	4	2	月の高度の求め方	生命・地球(地球)	観察・実験の技能	A	77.5	77.5	83.9	71.1	56.8	0.0	83.9	0.1
12	4	3	月の動き方	生命・地球(地球)	知識・理解	A	89.5	89.5	95.3	86.0	61.7	0.0	95.3	0.2
13	5	1	物の形と重さ	物質・エネルギー(粒子)	知識・理解	A	82.6	82.6	94.6	73.1	30.9	0.0	94.6	0.4
14	5	2	物の体積と重さ	物質・エネルギー(粒子)	知識・理解	A	93.8	93.8	99.2	90.9	65.4	0.0	99.2	0.4
15	6	1	閉じ込めた空気の状態	物質・エネルギー(粒子)	知識・理解	A	88.0	88.0	96.4	79.5	59.3	50.0	46.4	0.2
16	6	2	閉じ込めた水の状態	物質・エネルギー(粒子)	知識・理解	A	82.5	82.5	95.7	71.9	24.7	50.0	45.7	0.2
17	6	3	閉じ込められた空気や水の状態	物質・エネルギー(粒子)	知識・理解	A	83.8	83.8	95.9	74.0	33.3	0.0	95.9	0.3
18	7	1	回路	物質・エネルギー(エネルギー)	知識・理解	A	68.5	68.5	85.5	50.0	16.0	0.0	85.5	3.5
19	7	2	豆電球のつなぎ方	物質・エネルギー(エネルギー)	知識・理解	A	84.7	84.7	93.0	79.2	44.4	0.0	93.0	0.9
20	7	3	電池のつなぎ方	物質・エネルギー(エネルギー)	知識・理解	A	76.1	76.1	89.6	62.0	32.1	0.0	89.6	1.2
21	8	1	ゴムの力	物質・エネルギー(エネルギー)	思考・表現	B	60.0	60.0	78.0	36.8	18.5	0.0	78.0	3.4
22	8	2	ゴムの働き	物質・エネルギー(エネルギー)	思考・表現	B	49.7	49.7	63.8	32.5	13.6	0.0	63.8	4.9
23	9	1	結露	生命・地球(地球)	思考・表現	B	59.6	59.6	73.1	44.4	19.8	0.0	73.1	0.9
24	9	2	結露のしくみ	生命・地球(地球)	思考・表現	B	58.2	58.2	79.9	30.4	7.4	0.0	79.9	1.9
25	9	3	水のゆくえ	生命・地球(地球)	思考・表現	B	21.5	21.5	34.3	2.9	0.0	0.0	34.3	5.2

■ 課題等

生命・地球（生命）

- ◇ 植物の育ち方に関する問題は正答率が高く、基礎的・基本的な知識の定着が図られている傾向がみられる。
- ◇ 虫眼鏡の使い方の問題は、領域の目標値を下回っているが、平成24年度の類似問題と比較すると正答率が高くなっており、少しずつではあるが学習内容が定着している傾向がみられる。

生命・地球（地球）

- ◇ 気温の測り方の観察・実験の技能をみる問題は、正答率が高い傾向がみられる。
- ◆ 水のゆくえに関する思考・表現の問題は正答率が低く、学習内容の定着に課題がみられる。

物質・エネルギー（粒子）

- ◇ 閉じ込めた空気の性質に関する問題は正答率が高く、学習内容が定着している傾向がみられる。

物質・エネルギー（エネルギー）

- ◇ 豆電球のつなぎ方に関する問題は正答率が高く、学習内容が定着している傾向がみられる。
- ◆ ゴムの働きに関する問題は正答率が低く、目標値を下回っており、学習内容の定着に課題がみられる。

◇…よくできている点 ◆…課題がみられる点 下線部はB問題に関するものです。

■ 指導改善のポイント

生命・地球（生命）

- 観察や実験などを通して、植物や動物の体のつくりと特徴を確実に理解させたうえで、身近な植物に目を向け、知識と結び付けて特徴を考えさせることが大切である。また、虫眼鏡の使い方等の観察・実験の技能も確実に身に付けさせることが大切である。

生命・地球（地球）

- 1日の気温の変化の測り方や月の動きの記録等、実際に観察する機会を多くもつようにすることが大切である。また、目に見えない水蒸気等については、モデル図や視聴覚教材を効果的に用いることが大切である。

物質・エネルギー（粒子）

- 空気や水の性質については、実験で注射器のピストンを押したときの感触を大切に、学習内容と日常生活とを関連付けて考察させることが必要である。

物質・エネルギー（エネルギー）

- ゴムの力で動くおもちゃ等の実験結果を使って、ゴムの伸びと動く距離の関係等を考察させ、自分の言葉で表現させるようにすることが大切である。

■ 学力向上のためのヒント（おうちの方へ）

- 虫眼鏡を持って、一緒に自然散策に出かけ、自然の中の植物や動物を細かなところまで見ることで植物や動物に対する関心が高まり、学習内容の定着につながると考えられます。
- 気温は場所や時刻によって異なります。家の近くあるいは外出の際、気温の変化のみられる場所や時刻を話題にすることで、気温に対する関心が高まると考えられます。

Ⅱ-2 中学校 各教科の分析

各教科の調査問題の趣旨・内容

■ 国語

- 読む能力** 「読むこと」の領域において、基礎的・基本的な知識や技能が身に付いているかどうか、またそれらを活用できるかどうかをみる問題。
(例) ■文章の内容を的確に読み取り、書いてまとめる。
- 書く能力** 「書くこと」の領域において、基礎的・基本的な知識や技能が身に付いているかどうか、またそれらを活用できるかどうかをみる問題。
(例) ■資料の情報を生かし、伝えたい事柄を条件に従って書く。
- 言語についての知識・理解・技能** 言語についての、基礎的・基本的な知識や技能が身に付いているかどうかをみる問題。
(例) ■漢字の正しい読み書きをする。
■漢和辞典の用法を正しく理解し、言葉を調べる。

■ 社会

- 知識・理解** 地理的・歴史的事象に関する基礎的・基本的な知識が身に付いているかどうかをみる問題。
(例) ■大陸の分布について理解している。
- 思考・判断・表現** 様々な資料を活用して事象を多面的・多角的に考察し公正に判断するとともに、適切に表現することができるかどうかをみる問題。
(例) ■法令による役所のしくみの資料を基に、「和同開珎」が宮崎で見つかった理由について考察し、表現する。
- 資料活用** 地理的・歴史的事象に関する諸資料から、有用な情報を適切に選択して、効果的に活用することができるかどうかをみる問題。
(例) ■アメリカの農業地域と降水量の分布図を基に、綿花が栽培されている地域を読み取る。

■ 数学

- 技 能** 事象を文字式や方程式、グラフ、図形などで数学的に表現し処理することができるかどうかをみる問題。
(例) ■正・負の数の四則計算をする。方程式を解く。
■比例のグラフをかく。垂線を作図する。
- 知識・理解** 数量や図形などに関する基礎的な概念や原理・法則などについて理解し、知識を身に付けているかどうかをみる問題。
(例) ■数の大小関係や文字式の意味を理解する。
■座標や反比例の関係について理解する。
- 見方や考え方** 事象を数学的にとらえ、論理的に考察し表現するなど、数学的な見方や考え方を身に付けているかどうかをみる問題。
(例) ■条件にあわない根拠を、反例をあげて示す。
■見いだした数学的な事実や事柄が成り立つ理由を説明する。

■ 理科

知識・理解	自然の事物・現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識が身に付いているかどうかをみる問題。 (例) ■火成岩のつくりの特徴を理解している。 ■弾く弦の長さと言の高低の関係を理解している。
観察・実験の技能	観察・実験の技能が身に付いているかどうか、観察・実験の過程や結果を的確に記録し、整理できるかどうかをみる問題。 (例) ■メスシリンダーの目盛りを正しく読み取り、物体の体積をはかることができる。
思考・表現	自然の事物・現象による事象や結果を分析して解釈し、表現することができるかどうかをみる問題。 (例) ■葉脈や維管束の並び方から、植物をなかま分けすることができる。 ■実像の大きさと凸レンズの焦点距離との関係を図から読み取り、望遠鏡の仕組みを説明することができる。

■ 英語

理解	「聞くこと」「読むこと」の領域において、英語で話された内容や英語で書かれた文章の内容を正しく理解できるかをみる問題。 (例) ■英語の問いかけに対して適切に応答する。 ■英語を聞いて、概要や要点を正確につかむ。 ■英語を読んで、概要や要点を正確に理解している。
知識・理解	英語の基本的な語彙や文構造などの文法的な知識が定着しているかどうかをみる問題。 (例) ■与えられた英語を使い、正しい語順で英文を書く。
表現	英語が使われる実際の場面において、相手の行動を促したり、自分の考えや気持ち、意向を伝えたりするなど、言語の働きを意識して、適切な内容で表現することができるかどうかをみる問題。 (例) ■与えられた場面に即して自分が伝えたい内容を考え、適切に表現する。 ■英文を読んで内容の詳細を理解し、自分の思いや考えを適切に表現する。

1 中学校2年:国 語

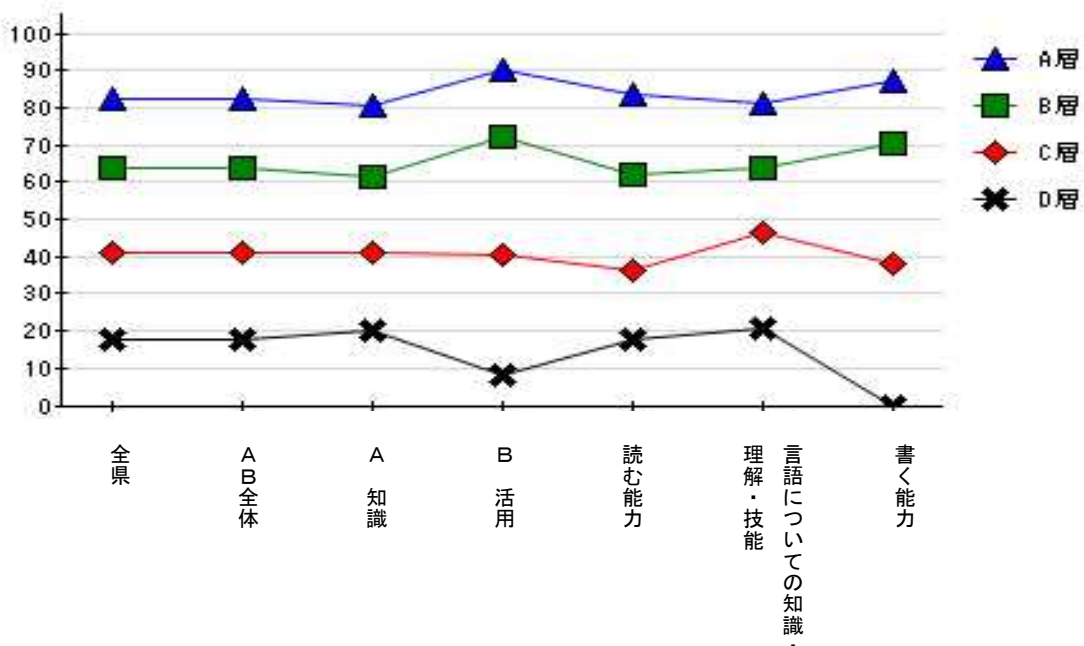
■ 学習状況調査の結果概要

※数値は、全受験者から1000名を抽出したデータをもとに算出したものです。

□ 学習定着状況(%)

分類・観点・領域			目標値	正答率(%)		全県の階層に含まれる児童生徒の平均正答率			
				全県	平均	A層	B層	C層	D層
平均正答率 (%)	分類	A B全体	70.6	66.7	66.7	82.6	63.6	40.9	17.5
		A 知識	72.3	65.1	65.1	80.7	61.5	41.0	19.9
		B 活用	64.0	73.3	73.4	90.3	72.3	40.5	8.0
	観点	読む能力	72.9	66.0	66.0	83.3	61.8	36.5	17.4
		言語についての知識・理解・技能	73.0	67.3	67.3	80.9	63.9	46.3	20.9
		書く能力	53.3	71.2	71.2	87.3	70.2	38.2	0.0
	領域	読むこと	72.9	66.0	66.0	83.3	61.8	36.5	17.4
		伝統的な言語文化と国語の特質	73.0	67.3	67.3	80.9	63.9	46.3	20.9
		書くこと	53.3	71.2	71.2	87.3	70.2	38.2	0.0
達成率 (%)	分類	A B全体	-	48.1	48.1	100.0	21.5	0.0	0.0
		A 知識	-	37.0	36.9	87.4	7.7	0.0	0.0
		B 活用	-	63.6	63.8	91.6	58.6	13.8	0.4
	観点	読む能力	-	47.9	47.9	91.5	25.5	1.5	0.0
		言語についての知識・理解・技能	-	35.2	35.2	68.5	17.7	0.8	0.0
		書く能力	-	77.0	77.0	94.5	77.3	35.9	0.0
	領域	読むこと	-	47.9	47.9	91.5	25.5	1.5	0.0
		伝統的な言語文化と国語の特質	-	35.2	35.2	68.5	17.7	0.8	0.0
		書くこと	-	77.0	77.0	94.5	77.3	35.9	0.0

□ 平均正答率分布状況



■ 設問別解答状況一覧

□ 設問別通過率(%)

「A層・B層・C層・D層」は、国語の「正答率」を基に上位から4層に分けて表示しています。

結果概要

学習定着状況 (%)

◇「分類A」=「知識」に関する問題、「分類B」=「活用」に関する問題

◇「正答率」=できた問題数÷全問題数×100 (%)

◇「児童生徒の正答した割合」= (各層ごとの) 設問ができた生徒数÷全生徒数×100 (%)

問題番号			出題内容	領域	観点	分類	正答率(%)		全県の階層に含まれる児童生徒の正答した割合(%)				A層-D層	児童生徒の無解答の割合(%)
通し番号	大問	小問					全県	平均	A層	B層	C層	D層		
1	1	1	文脈の把握・語句の理解	読むこと	読む能力	A	77.6	77.6	95.5	76.2	38.2	17.4	78.1	0.0
2	1	2	内容の把握	読むこと	読む能力	A	76.2	76.2	92.3	75.8	38.2	21.7	70.6	0.0
3	1	3	内容の把握	読むこと	読む能力	A	73.0	73.0	89.8	69.7	41.2	30.4	59.4	0.0
4	1	4	内容の把握	読むこと	読む能力	A	72.5	72.5	88.8	69.9	42.0	17.4	71.4	0.2
5	1	5	内容の把握	読むこと	読む能力	A	30.3	30.3	54.0	19.7	0.8	0.0	54.0	5.8
6	2	1	文脈の把握・語句の理解	読むこと	読む能力	A	91.0	91.0	99.3	92.6	67.9	47.8	51.5	0.0
7	2	2	文章の構成・組み立ての把握	読むこと	読む能力	A	27.7	27.7	37.3	22.1	21.4	8.7	28.6	0.6
8	2	3	内容の把握	読むこと	読む能力	A	56.3	56.3	77.5	48.3	26.7	17.4	60.1	0.1
9	2	4	内容の把握	読むこと	読む能力	A	61.7	61.7	87.8	50.2	28.2	26.1	61.7	0.2
10	2	5	内容の把握・要約	読むこと	読む能力	A	69.5	69.5	90.5	63.1	37.4	13.0	77.5	0.3
11	3	1-(1)	漢字の読み	伝統的な言語文化と国語の特質	言語についての知識・理解・技能	A	98.1	98.1	100.0	99.8	93.1	60.9	39.1	0.6
12	3	1-(2)	漢字の読み	伝統的な言語文化と国語の特質	言語についての知識・理解・技能	A	93.9	93.9	98.0	95.0	85.5	47.8	50.2	0.4
13	3	2-(1)	漢字の書き	伝統的な言語文化と国語の特質	言語についての知識・理解・技能	A	54.6	54.6	76.5	46.3	25.2	8.7	67.8	2.1
14	3	2-(2)	漢字の書き	伝統的な言語文化と国語の特質	言語についての知識・理解・技能	A	61.4	61.4	75.0	57.0	42.7	17.4	57.6	4.9
15	3	3-(1)	文の組み立て	伝統的な言語文化と国語の特質	言語についての知識・理解・技能	A	89.1	89.1	98.8	89.3	68.7	34.8	64.0	0.6
16	3	3-(2)	文の成分	伝統的な言語文化と国語の特質	言語についての知識・理解・技能	A	74.0	74.0	96.3	70.7	27.5	17.4	78.9	0.2
17	3	4-(1)	書写・辞典の引き方	伝統的な言語文化と国語の特質	言語についての知識・理解・技能	A	85.5	85.5	98.3	86.7	56.5	4.3	94.0	2.8
18	3	4-(2)	書写・辞典の引き方	伝統的な言語文化と国語の特質	言語についての知識・理解・技能	A	79.2	79.2	92.0	77.5	56.5	17.4	74.6	1.5
19	3	5-1	歴史的仮名遣い	伝統的な言語文化と国語の特質	言語についての知識・理解・技能	A	19.9	19.9	39.5	8.5	3.1	0.0	39.5	6.0
20	3	5-2	歴史的仮名遣い	伝統的な言語文化と国語の特質	言語についての知識・理解・技能	A	17.7	17.7	34.3	7.9	4.6	0.0	34.3	15.9
21	4	1	資料の読み取り	読むこと	読む能力	B	79.2	79.2	96.0	79.0	42.7	0.0	96.0	2.5
22	4	2	資料の読み取り	読むこと	読む能力	B	76.9	76.9	90.5	75.3	52.7	8.7	81.8	3.1
23	4	3	資料の情報をもとにした自分の考えの記述	書くこと	書く能力	B	68.4	68.4	81.0	69.9	36.6	0.0	81.0	3.1
24	5	1	自分が選択した資料の表現の特徴の記述	書くこと	書く能力	B	73.7	73.7	88.3	73.1	44.3	0.0	88.3	3.1
25	5	2	自分が選択した資料の表現の特徴を生かした文章の作成	書くこと	書く能力	B	71.4	71.4	92.5	67.5	33.6	0.0	92.5	8.6

■ 課題等

読むこと

- ◇ 文脈を理解し、適語を補充する問題については、学習内容が定着している傾向がみられる。
- ◆ 内容を把握して答える問題については、全体を見通した内容の理解に課題がみられる。
- ◆ 文章構成、段落相互の関係を把握することに課題がみられる。

書くこと

- ◇ 選択した資料から、資料のよさを書く問題については、学習内容が定着している傾向がみられる。
- ◆ 長い文章を書く問題については、無回答率がやや高い。また、書く力の差が大きく、課題がみられる。

伝統的な言語文化と国語の特質

- ◇ 漢字の読みについては、学習内容が定着している傾向がみられる。
- ◇ 文法の基礎的・基本的な事項については、学習内容が定着している傾向がみられる。
- ◆ 漢字の書き取りの定着については、課題がみられる。
- ◆ 歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに書き直すことについては、課題がみられる。

◇…よくできている点 ◆…課題がみられる点 下線部はB問題に関するものです。

■ 指導改善のポイント

読むこと

- 文学的な文章を教材とする場合、文章の特徴や表現の仕方に着目させ、登場人物の心情や情景など、内容について一層深く理解させたいうえで、自分の意見や感想をまとめる言語活動の充実を図ることが重要である。

書くこと

- 相手や目的に応じて、内容が正しく伝わるよう、整理したり、表現を工夫したりする言語活動を通して、条件にしたがって書く活動を充実させる必要がある。
- 書くことが苦手な生徒に対して、具体的に書く要素を提示したり、書く材料を提示したりして、書くことへの抵抗をなくし、書くよろこびを生徒に実感させる指導が重要である。

伝統的な言語文化と国語の特質

- 漢字については、正確に読み書きができるだけでなく、「へん」や「つくり」などについても調べる機会を設定し、文脈に即して使えるよう指導することが大切である。また、毛筆指導との関連も十分に図る必要がある。
- 歴史的仮名遣いについては、読むことに加えて、現代仮名遣いに直させる指導が大切である。

■ 学力向上のためのヒント（おうちの方へ）

- とにかく、活字に触れさせましょう。新聞や本など、ひとまとまりの考えや情報が書かれているものをしっかり読ませましょう。読ませる際、語の使い方や漢字の用法などに注目させることが大切です。また、気に入った文の視写に取り組むことも効果的です。
- 本を選ぶにあたって、いきなり難しいものではなく、自分の興味のあるものから始めてみましょう。映画の原作や話題になっている本でもよいと思います。そこから次第にレベルアップしていく努力をさせてみましょう。

2 中学校2年:社 会

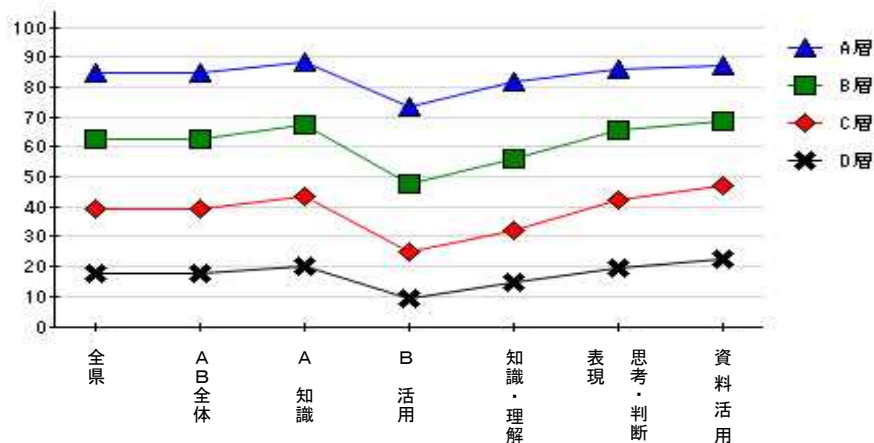
■ 学習状況調査の結果概要

※数値は、全受験者から1000名を抽出したデータをもとに算出したものです。

□ 学習定着状況(%)

分類・観点・領域		目標値	正答率(%)		全県の階層に含まれる児童生徒の平均正答率				
			全県	平均	A層	B層	C層	D層	
平均正答率 (%)	分類	A B全体	67.6	62.0	62.0	84.7	62.7	39.1	17.6
		A 知識	70.0	66.1	66.1	88.2	67.4	43.7	20.2
		B 活用	60.0	49.0	49.0	73.4	47.8	24.8	9.1
	観点	知識・理解	72.2	57.2	57.2	82.0	56.0	32.2	14.8
		思考・判断・表現	63.8	64.5	64.5	85.7	65.8	42.0	19.4
		資料活用	70.0	67.5	67.5	87.4	68.6	47.3	22.7
	領域	世界のすがた	80.0	66.0	66.0	89.9	65.6	43.7	16.7
		日本のすがた	66.7	57.2	57.2	80.1	53.6	37.4	23.1
		世界各地の人々の生活と環境	70.0	80.7	80.7	97.0	82.7	65.9	33.3
		世界の諸地域	65.0	65.9	65.9	91.0	68.3	36.8	14.6
		古代までの日本	70.0	58.7	58.7	79.8	59.6	36.3	16.3
		中世の日本	68.0	60.5	60.5	82.8	61.2	36.7	17.8
		世界のさまざまな地域の調査	53.3	62.1	62.1	88.8	63.1	32.8	12.0
達成率 (%)	分類	A B全体	-	48.7	48.7	100.0	37.7	0.0	0.0
		A 知識	-	48.2	48.2	99.8	36.5	0.0	0.0
		B 活用	-	40.2	40.2	82.2	29.5	3.3	0.3
	観点	知識・理解	-	32.2	32.2	78.9	13.5	0.5	0.0
		思考・判断・表現	-	54.7	54.7	98.8	53.3	2.0	0.0
		資料活用	-	35.0	35.0	65.6	28.2	8.3	1.4
	領域	世界のすがた	-	47.6	47.6	80.6	42.1	19.0	0.0
		日本のすがた	-	23.7	23.7	51.4	15.2	1.5	0.0
		世界各地の人々の生活と環境	-	73.3	73.3	95.1	73.9	54.6	18.1
		世界の諸地域	-	49.4	49.4	82.9	46.7	13.7	4.2
		古代までの日本	-	38.8	38.8	83.2	25.6	2.9	0.0
		中世の日本	-	41.1	41.1	80.1	32.7	5.9	0.0
		世界のさまざまな地域の調査	-	65.1	65.1	95.7	70.3	25.4	2.8

□ 平均正答率分布状況



■ 設問別解答状況一覧

□ 設問別通過率(%)

「A層・B層・C層・D層」は、社会の「正答率」を基に上位から4層に分けて表示しています。

結果概要
 学習定着状況(%)

◇「分類A」=「知識」に関する問題、「分類B」=「活用」に関する問題
 ◇「正答率」=できた問題数÷全問題数×100(%)
 ◇「児童生徒の正答した割合」=(各層ごとの)設問ができた生徒数÷全生徒数×100(%)

問題番号			出題内容	領域	観点	分類	正答率(%)		全県の階層に含まれる児童生徒の正答した割合(%)				A層-D層	児童生徒の無解答の割合(%)
通し番号	大問	小問					全県	平均	A層	B層	C層	D層		
1	1	1	大陸の分布	世界のすがた	知識・理解	A	75.1	75.1	92.5	76.9	59.0	27.8	64.7	0.0
2	1	2(1)	日本の領域の内容・範囲	日本のすがた	知識・理解	A	45.2	45.2	63.9	36.5	32.2	40.3	23.6	0.6
3	1	2(2)	日本の領土と経済水域	日本のすがた	思考・判断・表現	A	85.1	85.1	99.1	90.4	70.7	29.2	69.9	0.1
4	1	2(3)	緯度と経度	世界のすがた	知識・理解	A	56.8	56.8	87.3	54.3	28.3	5.6	81.7	2.9
5	1	2(4)	時差	日本のすがた	知識・理解	A	41.2	41.2	77.2	33.8	9.3	0.0	77.2	5.9
6	2	1A	伝統的な住居と気候	世界各地の人々の生活と環境	思考・判断・表現	A	79.3	79.3	95.7	81.0	66.8	26.4	69.3	0.7
7	2	1B	伝統的な住居と気候	世界各地の人々の生活と環境	思考・判断・表現	A	82.1	82.1	98.3	84.5	64.9	40.3	58.0	0.6
8	2	2	ヨーロッパの農業	世界の諸地域	思考・判断・表現	A	72.1	72.1	96.0	76.6	41.5	19.4	76.6	1.0
9	2	3	北アメリカ州の農業分布	世界の諸地域	資料活用	A	59.7	59.7	86.1	59.9	32.2	9.7	76.4	1.4
10	3	1(1)	文明のおこり	古代までの日本	思考・判断・表現	A	80.2	80.2	96.5	86.5	57.6	31.9	64.6	0.2
11	3	1(2)	文明の発展	古代までの日本	知識・理解	A	64.2	64.2	91.0	63.7	35.6	19.4	71.6	0.0
12	3	2	大和政権の発展	古代までの日本	知識・理解	A	77.9	77.9	98.0	83.5	53.2	20.8	77.2	8.1
13	3	3(1)	東西の交通	古代までの日本	知識・理解	A	82.6	82.6	98.0	93.7	58.5	16.7	81.3	6.0
14	3	3(2)	天平文化	古代までの日本	資料活用	A	56.6	56.6	80.1	53.0	37.1	19.4	60.7	0.6
15	3	4(1)	モンゴルの襲来と日本	中世の日本	知識・理解	A	45.5	45.5	76.6	44.7	9.8	2.8	73.8	12.5
16	3	4(2)	日明貿易	中世の日本	思考・判断・表現	A	78.8	78.8	98.6	84.3	52.2	29.2	69.4	0.4
17	3	4(3)	室町文化とその広がり	中世の日本	資料活用	A	86.0	86.0	96.0	92.9	72.7	38.9	57.1	0.7
18	3	5(1)	産業の発展と民衆の生活	中世の日本	知識・理解	A	25.8	25.8	53.5	17.3	4.4	0.0	53.5	19.5
19	3	5(2)	産業の発展と民衆の生活	中世の日本	思考・判断・表現	A	66.6	66.6	89.6	66.8	44.4	18.1	71.5	1.9
20	4	1	中国のインターネット普及率	世界のさまざまな地域の調査	思考・判断・表現	B	48.1	48.1	79.2	44.9	17.1	4.2	75.0	11.2
21	4	2(1)	中国の人口構成	世界のさまざまな地域の調査	思考・判断・表現	B	68.2	68.2	93.4	71.8	37.6	15.3	78.1	6.1
22	4	2(2)	世界の国々の人口変化	世界のさまざまな地域の調査	思考・判断・表現	B	70.1	70.1	93.9	72.6	43.9	16.7	77.2	2.0
23	5	1(1)	古代の歴史書	古代までの日本	思考・判断・表現	B	51.3	51.3	80.1	50.5	21.0	4.2	75.9	10.0
24	5	2(2)	大王の時代	古代までの日本	思考・判断・表現	B	43.5	43.5	62.4	39.8	27.3	18.1	44.3	2.0
25	5	3	律令国家と平城京	古代までの日本	思考・判断・表現	B	13.3	13.3	32.1	5.8	0.5	0.0	32.1	22.5

■ 課題等

世界のすがた

日本のすがた

- ◇ 大陸の分布についての理解は、定着している傾向がみられる。
- ◆ 緯度と経度について、D層の生徒の理解に課題がみられる
- ◆ 時差の計算について、基礎的・基本的な理解に課題がみられる。

世界各地の人々の生活と環境

- ◇ 気候帯と伝統的な住居の関連についての理解は、定着している傾向がみられる。

世界の諸地域

- ◆ 主題図等の活用について、D層の生徒の技能に課題がみられる。

古代までの日本

中世の日本

- ◇ 古代文明のおこりや大和政権についての理解は、定着している傾向がみられる。
- ◆ 律令国家について、資料から考察し表現することに課題がみられる。
- ◇ 室町文化についての理解は定着している傾向がみられる。
- ◆ 基礎的・基本的な用語についての理解に課題がみられる。

世界の様々な地域の調査

- ◆ グラフの割合の見方を基にして考察することに課題がみられる。

◇…よくできている点 ◆…課題がみられる点 下線部はB問題に関するものです。

■ 指導改善のポイント

世界のすがた

日本のすがた

- 資料等を活用して理解を図るようにすることが大切である。例えば、時差については、地球儀や地図を活用し、具体的な都市どうしの時差を計算させるなどして、繰り返し学習することが大切である。

世界各地の人々の生活と環境

- 気候や地形、民族などの分布を表したさまざまな主題図を活用するとともに、取り上げた事例を主題図上に位置付け、様々な事例を比較するなどの作業的な活動を取り入れることが重要である。

世界の諸地域

- 様々な資料等を比較・検討し、なぜこの地域にはこのような地理的事象が見られるのかという問いかけを基に、主題を設定し、分析・考察していくことが重要である。

古代までの日本

中世の日本

- 各時代の特色を大きくとらえ、言葉や図などで表したり、互いに意見交換したりする学習活動を行うことが必要である。その際、自分の言葉で表現することを通して、理解を深めるようにすることが重要である。また、他の時代と比較することで、違いや変化を理解させたり、歴史的事象の背景を考えさせたりすることが必要である。

世界の様々な地域の調査

- 人々の生活の特色を的確に把握できる事象を取り上げ、適切な主題を設けて、問題解決的な学習や、探究的な学習を行うことが重要である。その際、資料を的確に読み取ったり、地図を活用して事象を説明したりするなどの学習活動を取り入れ、自分の解釈を加えて論述したり、意見交換したりするなどの学習活動を充実させることが必要である。

■ 学力向上のためのヒント（おうちの方へ）

- 家族で新聞を読む、ニュースを見る時間を設けましょう。また、身近に地図を置くなどして、新聞やテレビに出てきた地名を、すぐに地図で確認できるようにして、普段から地図に慣れ親しむことができる環境をつくりましょう。
- 博物館や郷土資料館などに行き、身近な地域の歴史にふれる機会を設けましょう。身近な地域の歴史は、教科書等で学ぶ歴史と必ず関連しています。歴史に直接ふれることで、歴史を身近に感じ、興味・関心が高まっていきます。

3 中学校2年:数 学

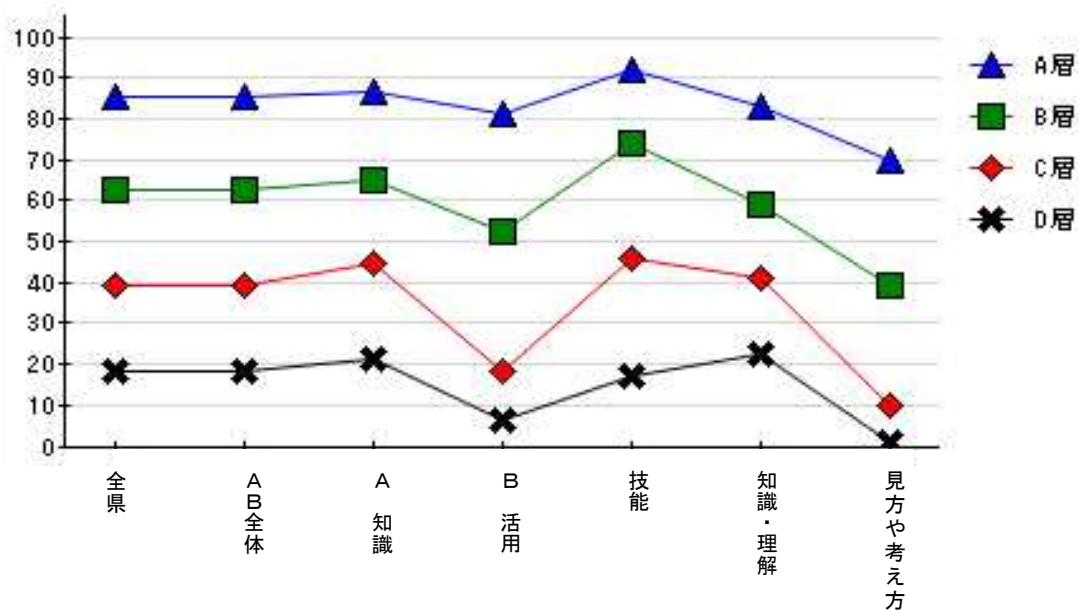
■ 学習到達度調査の概要

※数値は、全受験者から1000名を抽出したデータをもとに算出したものです。

□ 学習定着状況(%)

分類・観点・領域			目標値	正答率(%)		全県の階層に含まれる児童生徒の平均正答率			
				全県	平均	A層	B層	C層	D層
平均正答率 (%)	分類	A B全体	68.8	60.7	60.7	85.3	62.4	39.1	18.0
		A 知識	71.0	63.4	63.4	86.3	64.9	44.4	21.0
		B 活用	60.0	50.0	50.0	81.4	52.4	18.2	6.1
	観点	技能	70.5	67.9	67.9	92.2	74.1	45.7	17.2
		知識・理解	72.9	59.0	59.0	82.7	59.1	40.8	22.6
		見方や考え方	46.7	38.3	38.3	69.5	39.0	9.9	0.7
	領域	数と式	72.7	65.8	65.8	88.8	68.6	46.3	24.6
		関数	63.8	54.3	54.3	84.3	57.3	27.1	8.1
		図形	65.0	50.5	50.5	78.7	51.6	28.3	4.9
		資料の活用	65.0	59.3	59.3	79.5	62.6	41.2	22.5
達成率 (%)	分類	A B全体	-	40.1	40.1	100.0	18.0	0.0	0.0
		A 知識	-	39.0	39.0	97.0	17.6	0.0	0.0
		B 活用	-	52.6	52.6	95.8	55.7	6.6	0.1
	観点	技能	-	48.5	48.5	97.6	48.0	2.0	0.0
		知識・理解	-	32.8	32.8	88.4	12.4	0.0	0.0
		見方や考え方	-	37.0	37.0	78.3	31.9	3.2	0.0
	領域	数と式	-	44.5	44.5	97.2	37.9	0.4	0.0
		関数	-	47.2	47.2	89.6	46.8	8.8	0.0
		図形	-	29.9	29.9	71.6	19.0	1.2	0.0
		資料の活用	-	65.9	65.9	94.2	73.9	36.1	14.6

□ 平均正答率分布状況



■ 設問別解答状況一覧

□ 設問別通過率(%)

「A層・B層・C層・D層」は、数学の「正答率」を基に上位から4層に分けて表示しています。

結果概要

学習定着状況(%)

◇「分類A」=「知識」に関する問題、「分類B」=「活用」に関する問題

◇「正答率」=できた問題数÷全問題数×100(%)

◇「児童生徒の正答した割合」=(各層ごとの)設問ができた生徒数÷全生徒数×100(%)

問題番号			出題内容	領域	観点	分類	正答率(%)		全県の階層に含まれる児童生徒の正答した割合(%)				A層-D層	児童生徒の無解答の割合(%)
通し番号	大問	小問					全県	平均	A層	B層	C層	D層		
1	1	(1)	負の数の減法	数と式	技能	A	88.7	88.7	99.1	96.0	81.9	41.6	57.5	0.4
2	1	(2)	正と負の分数の除法	数と式	技能	A	82.3	82.3	95.4	87.6	73.1	39.3	56.1	0.8
3	1	(3)	負の分数の大小	数と式	知識・理解	A	46.6	46.6	70.0	37.4	34.1	31.5	38.5	0.6
4	1	(4)	指数の計算	数と式	知識・理解	A	91.8	91.8	98.8	96.3	88.4	58.4	40.4	0.0
5	1	(5)	カッコがある式の計算	数と式	知識・理解	A	72.7	72.7	93.9	77.6	57.4	18.0	75.9	0.0
6	1	(6)	文字式と数量	数と式	技能	A	88.7	88.7	99.4	94.5	79.5	52.8	46.6	0.0
7	1	(7)	大小関係を表す式	数と式	技能	A	44.3	44.3	75.5	47.4	13.7	3.4	72.1	3.3
8	2	(1)	方程式の利用	数と式	知識・理解	A	41.3	41.3	74.9	29.3	21.7	19.1	55.8	0.4
9	2	(2)	方程式の解き方	数と式	知識・理解	A	79.4	79.4	96.6	86.5	67.1	22.5	74.1	0.5
10	3	(1)	比例の式	関数	技能	A	69.6	69.6	97.2	79.6	41.8	6.7	90.5	4.1
11	3	(2)	関数関係の判断	関数	知識・理解	A	36.2	36.2	59.6	25.6	25.3	22.5	37.1	0.6
12	4	(1)	比例のグラフ	関数	技能	A	55.2	55.2	87.5	60.6	23.7	3.4	84.1	5.0
13	4	(2)	反比例のグラフ	関数	技能	A	56.2	56.2	93.0	63.5	17.7	0.0	93.0	8.3
14	5	(1)	点対称移動	図形	技能	A	58.6	58.6	88.1	62.9	31.3	10.1	78.0	4.7
15	5	(2)	扇形の面積	図形	知識・理解	A	34.6	34.6	71.9	28.7	6.4	0.0	71.9	6.6
16	5	(3)	垂線の作図	図形	技能	A	77.9	77.9	96.9	87.6	63.5	10.1	86.8	6.2
17	6	(1)	平面と直線の位置関係	図形	知識・理解	A	23.5	23.5	46.5	17.8	9.6	0.0	46.5	3.4
18	6	(2)	円柱の体積	図形	技能	A	57.7	57.7	89.9	60.6	30.5	4.5	85.4	6.6
19	7	(1)	資料の傾向	資料の活用	知識・理解	A	84.9	84.9	95.1	92.2	77.5	39.3	55.8	1.1
20	7	(2)	相対度数	資料の活用	知識・理解	A	67.4	67.4	93.3	74.1	38.6	27.0	66.3	1.3
21	8	(1)記号	正と負の四則計算	数と式	知識・理解	B	69.3	69.3	97.9	78.7	37.3	16.9	81.0	3.5
22	8	(1)理由	正と負の四則計算	数と式	見方や考え方	B	35.6	35.6	68.8	35.6	4.8	0.0	68.8	15.6
23	8	(2)1	負と正の四則計算	数と式	知識・理解	B	60.7	60.7	94.5	65.2	26.1	15.7	78.8	3.9
24	8	(2)2、3、4	負と正の四則計算	数と式	見方や考え方	B	53.8	53.8	89.6	59.8	17.3	1.1	88.5	5.9
25	9		資料の活用	資料の活用	見方や考え方	B	25.6	25.6	50.2	21.6	7.6	1.1	49.1	10.8

■ 課題等

数と式

- ◇ 指数の計算、負の数の減法、文字式と数量に関する問題については、正答率が高く、学習内容が定着している傾向がみられる。
- ◆ 負の分数の大小関係を不等号で表す問題については、正答率が低く、学習内容の定着に課題がみられる。
- ◆ 文字に正・負の数をあてはめた四則計算で、最大になる理由を数学的な表現を用いて説明することに課題がみられる。

関数

- ◇ 比例の表から x と y の関係を式に表す問題については、正答率が高く、学習内容が定着している傾向がみられる。
- ◆ 数量の関係を理解し、反比例の関係があると判断する問題については、正答率が低く、学習内容の定着に課題がみられる。

図形

- ◇ 垂線の作図については、正答率が高く、学習内容が定着している傾向がみられる。
- ◆ 空間における位置関係については、正答率が低く、学習内容の定着に課題がみられる。

資料の活用

- ◇ 資料の傾向の理解に関する問題では、正答率が高く、学習内容が定着している傾向がみられる。
- ◆ 資料の傾向から事象を判断し、その理由を数学的な表現を用いて説明することについては、正答率が低く、課題がみられる。

◇…よくできている点 ◆…課題がみられる点 下線部はB問題に関するものです。

■ 指導改善のポイント

数と式

- 数の大小関係について、数直線上に表したり、数直線上に表した数を読み取らせたりなどして、実感をともなった理解をうながすことが必要である。
- 数量の関係や法則などを、文字を用いて表したり、式の意味を読み取らせたりすることを基に、文字式の下さを感じ取らせることが重要である。

関数

- 比例や反比例の意味や特徴を理解させ、表、式、グラフによる表現を相互に関連付けて考えさせる学習を重視することが必要である。

図形

- 平面及び空間における図形の基本事項を定着させ、図形の性質などについて、根拠を明らかにして筋道を立てて説明し伝え合ったり、その説明から新たな性質や関係を読み取ったりする学習を重視することが必要である。

資料の活用

- 目的に応じて資料の傾向を読み取らせ、その根拠を数学的な表現を用いて説明させる機会を設けることが重要である。

■ 学力向上のためのヒント（おうちの方へ）

- 時間を意識させ、多くの問題が解けるように、また、まちがえた問題を確実に正すように取り組ませましょう。数学の力をつけるためには、継続と繰り返しが必要です。
- 買い物の際に、合計金額の見積もりをさせたり、外出の際に、この速度で進むとあと何時間で到着するかを推測させたりするなど、身の回りの事柄に数学を関連付けて考えさせましょう。日常生活の中で数学を使う場面はたくさんあります。

4 中学校2年:理 科

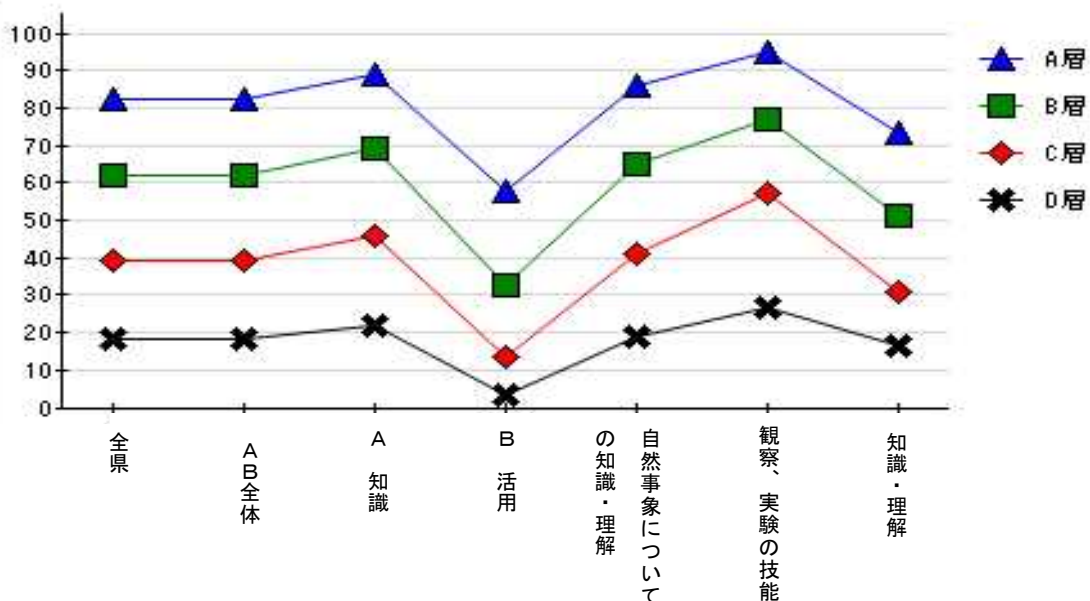
■ 学習状況調査の概要

※数値は、全受験者から1000名を抽出したデータをもとに算出したものです。

□ 学習定着状況(%)

分類・観点・領域			目標値	正答率(%)		全県の階層に含まれる児童生徒の平均正答率				
				全県	平均	A層	B層	C層	D層	
平均正答率 (%)	分類	A B全体	68.0	55.8	55.8	82.6	61.9	39.2	18.2	
		A 知識	70.0	62.3	62.3	88.8	69.2	45.7	21.9	
		B 活用	60.0	29.8	29.8	57.5	32.6	13.5	3.4	
	観点	自然事象についての知識・理解	71.3	58.6	58.6	86.0	65.2	41.1	18.8	
		観察、実験の技能	75.0	70.6	70.6	94.8	76.7	57.1	26.7	
		科学的な思考・表現	60.0	47.2	47.2	73.4	51.4	31.1	16.3	
	領域	生物的領域	71.9	60.1	60.1	87.4	67.3	42.7	17.4	
		地学的領域	73.0	68.8	68.8	91.2	74.9	54.9	31.4	
		物理的領域	60.0	48.1	48.1	72.9	51.8	33.6	17.1	
		化学的領域	68.0	47.3	47.3	80.1	53.4	25.8	9.8	
	達成率 (%)	分類	A B全体	-	34.8	34.8	100.0	32.2	0.0	0.0
			A 知識	-	44.2	44.2	100.0	56.8	0.0	0.0
B 活用			-	22.8	22.8	65.7	19.4	1.8	0.1	
観点		自然事象についての知識・理解	-	34.5	34.5	99.6	31.1	0.0	0.0	
		観察、実験の技能	-	47.9	47.9	89.5	54.4	21.4	2.3	
		科学的な思考・表現	-	36.2	36.2	91.3	38.1	2.9	0.0	
領域		生物的領域	-	39.9	39.9	93.9	45.9	3.6	0.0	
		地学的領域	-	52.1	52.1	91.7	61.9	24.4	2.3	
		物理的領域	-	25.1	25.1	75.1	19.9	1.3	0.0	
		化学的領域	-	27.5	27.5	78.2	24.4	1.3	0.0	

□ 平均正答率分布状況



■ 設問別解答状況一覧

□ 設問別通過率(%)

「A層・B層・C層・D層」は、理科の「正答率」を基に上位から4層に分けて表示しています。

結果概要
学習定着状況(%)

- ◇ 「分類A」= 「知識」に関する問題、「分類B」= 「活用」に関する問題
- ◇ 「正答率」= できた問題数÷全問題数×100 (%)
- ◇ 「児童生徒の正答した割合」= (各層ごとの) 設問ができた生徒数÷全生徒数×100 (%)

問題番号			出題内容	領域	観点	分類	正答率(%)		全県の階層に含まれる児童生徒の正答した割合(%)				A層-D層	児童生徒の無解答の割合(%)
通し番号	大問	小問					全県	平均	A層	B層	C層	D層		
1	1	1	シダ植物の体のつくり	生物的領域	自然事象についての知識・理解	A	60.8	60.8	90.4	68.9	41.6	14.0	76.4	0.0
2	1	2	シダ植物の体のつくり	生物的領域	自然事象についての知識・理解	A	72.3	72.3	96.5	83.7	53.9	23.3	73.2	1.6
3	1	3	シダ植物の仲間	生物的領域	自然事象についての知識・理解	A	61.6	61.6	90.0	67.4	45.8	17.4	72.6	0.2
4	2	1	対照実験の意味	生物的領域	観察、実験の技能	A	91.7	91.7	100.0	97.4	90.6	47.7	52.3	0.0
5	2	2	光合成で必要なもの	生物的領域	科学的な思考・表現	A	75.5	75.5	95.2	85.0	62.7	26.7	68.5	0.9
6	3	1	火成岩のつくり	地学的領域	自然事象についての知識・理解	A	46.9	46.9	82.1	53.9	22.7	8.1	74.0	10.3
7	3	2	火成岩ができる場所	地学的領域	自然事象についての知識・理解	A	69.5	69.5	90.4	75.1	57.1	32.6	57.8	0.7
8	4	1	地層のでき方	地学的領域	自然事象についての知識・理解	A	91.5	91.5	98.7	97.7	88.6	54.7	44.0	0.7
9	4	2	示相化石	地学的領域	自然事象についての知識・理解	A	76.0	76.0	95.2	82.9	64.3	36.0	59.2	0.3
10	4	3	火山灰の地層からわかること	地学的領域	自然事象についての知識・理解	A	60.1	60.1	89.5	65.0	41.6	25.6	63.9	0.5
11	5	1	弦の長さとお音の関係	物理的領域	自然事象についての知識・理解	A	58.5	58.5	87.8	63.7	39.3	25.6	62.2	0.2
12	5	2	モノコードの弦の振動とオシロスコープの波形との関係	物理的領域	科学的な思考・表現	A	69.0	69.0	90.4	69.4	59.4	44.2	46.2	0.5
13	6	1	重力の大きさ	物理的領域	自然事象についての知識・理解	A	84.6	84.6	100.0	94.6	74.4	36.0	64.0	3.0
14	6	2	重力と抗力との関係	物理的領域	自然事象についての知識・理解	A	60.3	60.3	92.6	68.4	41.2	5.8	86.8	0.5
15	6	3	圧力	物理的領域	自然事象についての知識・理解	A	37.4	37.4	86.5	39.6	8.4	0.0	86.5	10.6
16	7	1	蒸留	化学的領域	自然事象についての知識・理解	A	48.1	48.1	90.0	58.8	16.6	1.2	88.8	14.2
17	7	2	混合物	化学的領域	科学的な思考・表現	A	73.5	73.5	93.0	81.3	60.4	33.7	59.3	0.3
18	7	3	蒸留によって得られる液の色	化学的領域	自然事象についての知識・理解	A	18.4	18.4	37.1	20.5	7.1	0.0	37.1	3.1
19	8	1	物体の体積	化学的領域	観察、実験の技能	A	49.5	49.5	89.5	56.0	23.7	5.8	83.7	7.3
20	8	2	密度	化学的領域	科学的な思考・表現	A	47.1	47.1	90.8	50.5	21.1	8.1	82.7	7.6
21	9	1	果実	生物的領域	自然事象についての知識・理解	B	33.2	33.2	62.9	37.6	14.6	1.2	61.7	4.7
22	9	2	双子葉類の葉脈	生物的領域	科学的な思考・表現	B	43.3	43.3	86.5	48.4	15.3	5.8	80.7	4.9
23	9	3	双子葉類の根のつくり	生物的領域	科学的な思考・表現	B	42.4	42.4	78.2	50.0	17.2	3.5	74.7	14.8
24	10	1	凸レンズの焦点距離とレンズのふくらみ	物理的領域	科学的な思考・表現	B	9.1	9.1	25.8	7.5	1.3	0.0	25.8	5.3
25	10	2	接眼レンズのはたらき	物理的領域	科学的な思考・表現	B	17.7	17.7	27.5	19.2	11.4	8.1	19.4	0.7

■ 課題等

生物学的領域

- ◇ 対照実験の目的に関する問題については、正答率が高く、目的を明確にした実験が行われていることにより学習内容が定着している傾向がみられる。
- ◆ 野菜の茎や根の切り口から植物の分類を考える問題については、正答率が低く、学習内容を身近なものに当てはめて考えることに課題がみられる。

地学的領域

- ◇ 地層ができる順序に関する問題については、正答率が高く、学習内容が定着している傾向がみられる。

化学的領域

- ◇ 液体の混合物を加熱したときの温度変化に関する問題については、正答率が高く、混合物の温度変化の特徴について学習内容が定着している傾向がみられる。
- ◆ 液体の混合物を加熱したときに出てくる物質に関する問題については、正答率が低く、蒸留により純粋な物質がとり出せることについての理解に課題がみられる。

物理的領域

- ◇ 重力の大きさに関する問題については、正答率が高く、力の大きさを求めることについて学習内容が定着している傾向がみられる。
- ◆ 凸レンズのふくらみと焦点距離の違いに関する問題については、正答率が低く、凸レンズを通過する光の進み方について学習内容の定着に課題がみられる。

◇…よくできている点 ◆…課題がみられる点 下線部はB問題に関するものです。

■ 指導改善のポイント

生物学的領域

- 観察・実験などを通して、植物の体のつくりや特徴を確実に理解させた上で、身近な植物に目を向けさせ、知識と結び付けて特徴を考えさせることが大切である。

地学的領域

- 地層のでき方について、モデル実験や視聴覚教材等を利用し、これらの疑似体験と実際の地層を対比させて考えさせることが大切である。

化学的領域

- 蒸留に関する実験を通して、加熱することによってとり出した液体の特徴（色、におい、火を近づけたときのような等）をよく観察させることが大切である。

物理的領域

- 凸レンズを用いてできる像を観察し、実験結果を考察させて、凸レンズと物体の距離の違いによる像のでき方の違いを見いださせることが大切である。

■ 学力向上のためのヒント（おうちの方へ）

- 野菜は身近な植物です。食べているのは植物のどの部分に当たるか、料理をしながら一緒に考えてみましょう。植物の体のつくりや特徴に対して関心が高まり、学習内容の定着につながる考えられます。
- ガソリンや灯油は、沸点（液体が沸とうして気体に変化する時の温度）の違いを利用して石油からとり出しています。身のまわりには、温度の違いによって液体や気体など状態が変化する性質を利用して得られる物質があることを話題にして、物質の状態変化に対する関心高めましょう。

5 中学校2年:英 語

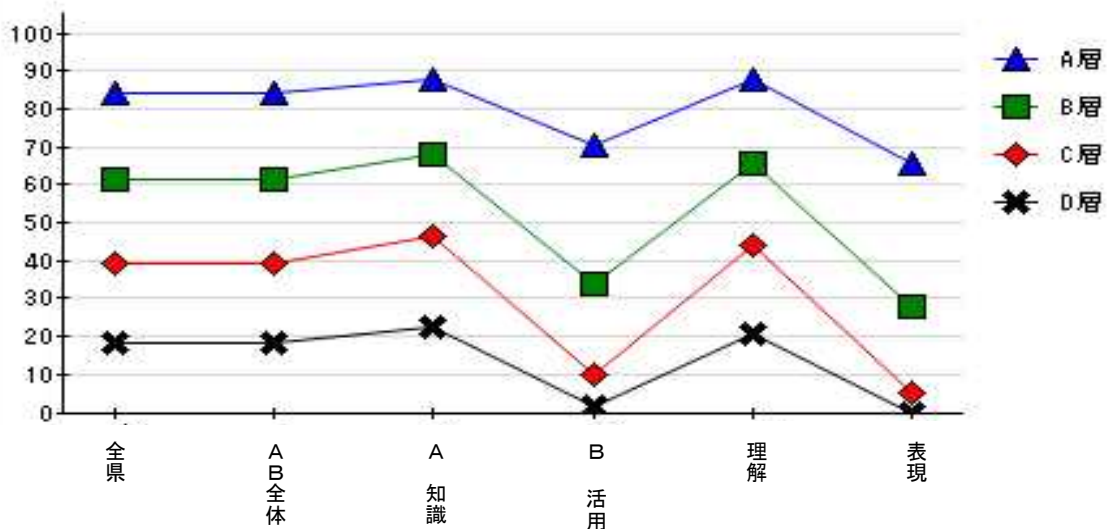
■ 学習到達度調査の概要

※数値は、全受験者から1000名を抽出したデータをもとに算出したものです。

□ 学習定着状況(%)

分類・観点・領域			目標値	正答率(%)		全県の階層に含まれる児童生徒の平均正答率				
				全県	平均	A層	B層	C層	D層	
平均正答率 (%)	分類	A B全体	68.8	53.7	53.7	84.4	61.1	39.2	18.4	
		A 知識	71.0	59.8	59.8	87.9	67.9	46.5	22.7	
		B 活用	60.0	29.2	29.2	70.3	33.9	10.0	1.5	
	観点	理解	70.9	57.7	57.7	87.5	65.8	44.2	20.8	
		表現	53.3	23.7	23.7	65.3	28.0	5.2	0.0	
	領域	聞くこと	76.7	72.1	72.1	90.2	80.0	64.1	35.6	
		読むこと	68.8	59.7	59.7	89.8	70.2	45.1	15.8	
		書くこと	56.7	23.6	23.6	71.5	26.3	3.5	0.2	
		読むこと書くこと	70.0	37.0	37.0	81.0	45.5	14.9	5.0	
	達成率 (%)	分類	A B全体	-	23.9	23.9	100.0	13.6	0.0	0.0
			A 知識	-	29.0	29.0	99.2	28.1	0.0	0.0
			B 活用	-	24.2	24.2	83.7	21.9	1.1	0.1
観点		理解	-	28.4	28.4	100.0	29.4	0.0	0.0	
		表現	-	20.3	20.3	73.3	19.3	0.8	0.0	
領域		聞くこと	-	54.9	54.9	95.5	74.6	28.4	0.0	
		読むこと	-	38.6	38.6	96.6	51.6	6.8	0.0	
		書くこと	-	15.4	15.4	77.3	5.3	0.0	0.0	
読むこと書くこと	-	19.8	19.8	68.2	19.8	1.1	1.1			

□ 平均正答率分布状況



■ 設問別解答状況一覧

□ 設問別通過率

「A層・B層・C層・D層」は、英語の「正答率」を基に上位から4層に分けて表示しています。

結果概要

学習定着状況（％）

◇「分類A」＝「知識」に関する問題、「分類B」＝「活用」に関する問題

◇「正答率」＝できた問題数÷全問題数×100（％）

◇「児童生徒の正答した割合」＝（各層ごとの）設問ができた生徒数÷全生徒数×100（％）

問題番号			出題内容	領域	観点	分類	正答率(%)		全県の階層に含まれる児童生徒の正答した割合(%)				A層-D層	児童生徒の無解答の割合(%)
通し番号	大問	小問					全県	平均	A層	B層	C層	D層		
1	1	No.1	指示している内容の理解	聞くこと	理解	A	93.5	93.5	100.0	99.2	92.3	61.1	38.9	0.2
2	1	No.2	指示している内容の理解	聞くこと	理解	A	56.3	56.3	86.4	69.8	38.5	13.3	73.1	0.5
3	1	No.3	指示している内容の理解	聞くこと	理解	A	90.8	90.8	99.4	98.1	87.2	57.8	41.6	0.1
4	2	No.1	探しているものについて尋ねる疑問文の理解	聞くこと	理解	A	85.2	85.2	100.0	95.8	78.1	41.1	58.9	0.1
5	2	No.2	色について尋ねている疑問文の理解	聞くこと	理解	A	80.6	80.6	94.3	90.2	77.0	27.8	66.5	0.1
6	2	No.3	値段を尋ねる疑問文の理解	聞くこと	理解	A	54.2	54.2	84.7	59.8	42.9	16.7	68.0	0.4
7	3	(1)	聞きとった英語の内容の書き取り	聞くこと	理解	A	40.8	40.8	66.5	45.8	28.4	20.0	46.5	20.1
8	3	(2)	聞きとった英語の内容の書き取り	聞くこと	理解	A	62.6	62.6	81.8	75.4	51.4	16.7	65.1	0.2
9	3	(3)	聞きとった英語の内容の書き取り	聞くこと	理解	A	84.6	84.6	98.3	86.0	81.1	65.6	32.7	0.7
10	4	1-(1)	対話文の内容理解	読むこと	理解	A	48.2	48.2	90.3	53.4	32.2	8.9	81.4	0.2
11	4	1-(2)	対話文の内容理解	読むこと	理解	A	59.6	59.6	96.6	66.7	44.0	21.1	75.5	0.4
12	4	2-(1)	対話文の内容理解	読むこと	理解	A	67.9	67.9	94.9	85.4	51.4	8.9	86.0	5.9
13	4	2-(2)	対話文の内容理解	読むこと	理解	A	55.7	55.7	90.9	70.1	37.7	0.0	90.9	5.1
14	4	2-(3)	対話文の内容理解	読むこと	理解	A	73.9	73.9	98.9	87.6	59.8	24.4	74.5	0.8
15	5	1-(1)	持ち主を尋ねる表現の理解	読むこと	理解	A	57.2	57.2	79.0	66.1	46.7	20.0	59.0	0.3
16	5	2-(2)	電話での会話表現の理解	読むこと	理解	A	49.0	49.0	72.2	50.5	42.9	22.2	50.0	0.5
17	5	2-(3)	電話での会話表現の理解	読むこと	理解	A	65.9	65.9	96.0	82.0	45.9	21.1	74.9	1.1
18	6	(1)	英語の説明文を読み、適切な英単語に置き換えて表現する語彙力	書くこと	理解	A	22.1	22.1	76.7	21.7	1.4	1.1	75.6	16.8
19	6	(2)	英語の説明文を読み、適切な英単語に置き換えて表現する語彙力	書くこと	理解	A	29.8	29.8	84.7	37.6	2.7	0.0	84.7	13.2
20	6	(3)	英語の説明文を読み、適切な英単語に置き換えて表現する語彙力	書くこと	理解	A	18.5	18.5	71.6	14.8	1.4	0.0	71.6	17.3
21	7	1	身近な日常生活についての条件英作文	書くこと	表現	B	39.6	39.6	89.2	52.1	12.6	0.0	89.2	9.6
22	7	2	身近な日常生活についての条件英作文	書くこと	表現	B	13.1	13.1	46.6	12.2	1.1	0.0	46.6	11.6
23	8	1-(1)	適切な英単語の活用	読むこと書くこと	理解	B	47.3	47.3	86.9	57.9	27.0	7.8	79.1	8.9
24	8	1-(ア)	適切な英単語の活用	読むこと書くこと	理解	B	26.6	26.6	75.0	33.1	2.7	2.2	72.8	23.8
25	8	2	プレゼントについての条件英作文	書くこと	表現	B	18.5	18.5	60.2	19.6	1.9	0.0	60.2	19.1

■ 課題等

聞くこと

- ◇ 指示している内容や、短い対話文における内容理解に関する問題については、正答率が高く、大切な情報をメモを取りながら聞く習慣が身に付いている傾向がみられる。
- ◆ 日付けや値段などの情報を正確に聞き取る問題については、例年、正答率が低く、必要な情報を正しく理解することに課題がみられる。

読むこと

- ◇ 「話すこと」を意識した短い対話文における内容理解の問題についての正答率は、概ね良好であり、運用度の高い表現は定着が図られている傾向がみられる。
- ◆ 指示代名詞が指す内容を答える問題や、場所を表す副詞を選ぶ問題については、正答率が低く、語の特徴や文脈を考えながら読むことに課題がみられる。

書くこと

- ◇ 学校生活や日常生活などの身近なことについて表現する問題は、正答率が上がってきている傾向がみられる。
- ◆ 場面や状況、言葉の働きを理解し、自分の思いや考えを適切に表現できる力を身に付けさせることに課題がみられる。

◇…よくできている点 ◆…課題がみられる点 下線部はB問題に関するものです。

■ 指導改善のポイント

聞くこと

- 一つのテーマに沿って話されたものや、内容に一貫性のあるまとまりのある英文を聞き、話の概要や要点のとらえさせ方を指導することが大切である。その際、語と語のつながりや音の変化、スピードに対応して、日付けや値段などの事実や出来事についての必要な情報を正しく聞き取らせることが大切である。

読むこと

- 英文で書かれている内容を正しく理解するために、内容が表現される音読、物語や説明文、伝言や手紙文など、題材に応じた読み方を理解させたり、文構造や語法、文脈等を意識して読み進めることができる力を育てたりする指導が大切である。

書くこと

- 与えられている場面や条件（図や表、グラフ等）などから、表現に必要な情報を取り出し、整理して、自分の言葉で表現できる力（思考⇒判断⇒表現）を育てる指導が大切である。

■ 学力向上のためのヒント（おうちの方へ）

- 英語の授業は週4時間であり、学校で授業がない日もあります。英語は、こつこつと積み上げることが大切ですので、毎日10分ほど、家庭で音読しているところを聞いてあげましょう。
- 英語を使う交流活動や体験活動に参加する機会を積極的に増やし、学校外でも表現の能力を高めていきましょう。

A層～D層についてもっと知りたい！

A層～D層の値って何のためにあるの？

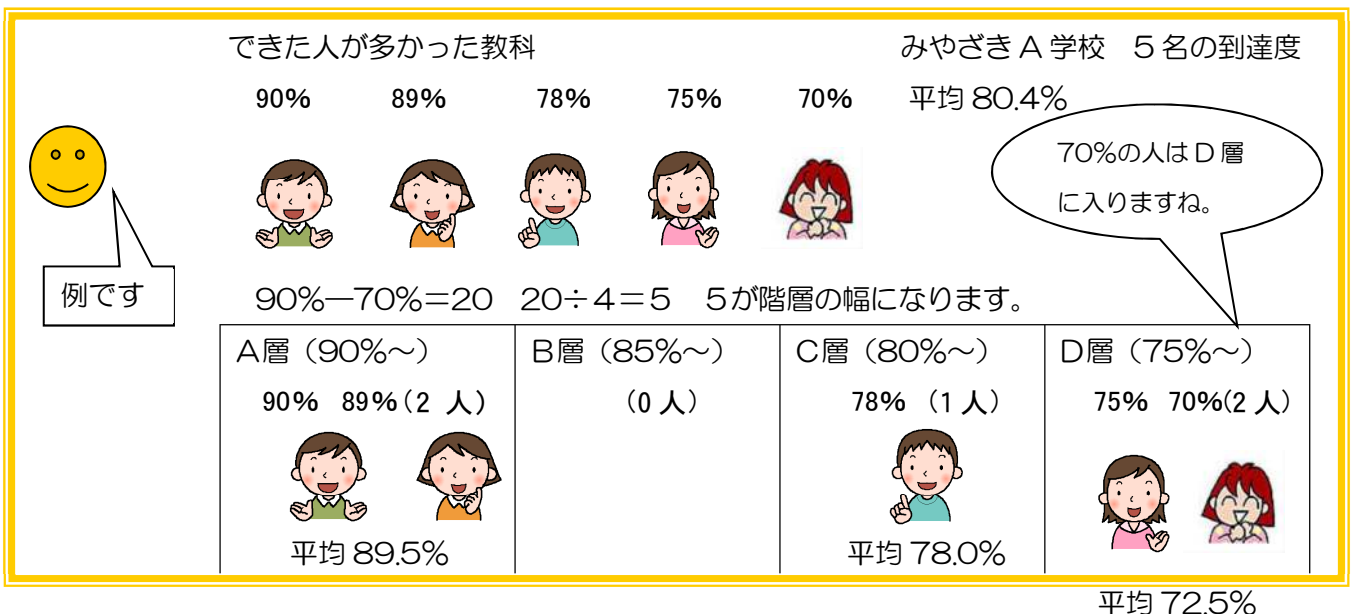
みやざき小中学校学習状況調査は、結果は得点ではなく正答率(できた割合%)で表しています。よって、結果が出たときに、問題ごとの正答率や個人差の大きい問題はどれかなど、集団や個人で**比べるための目印**となるよう示しています。

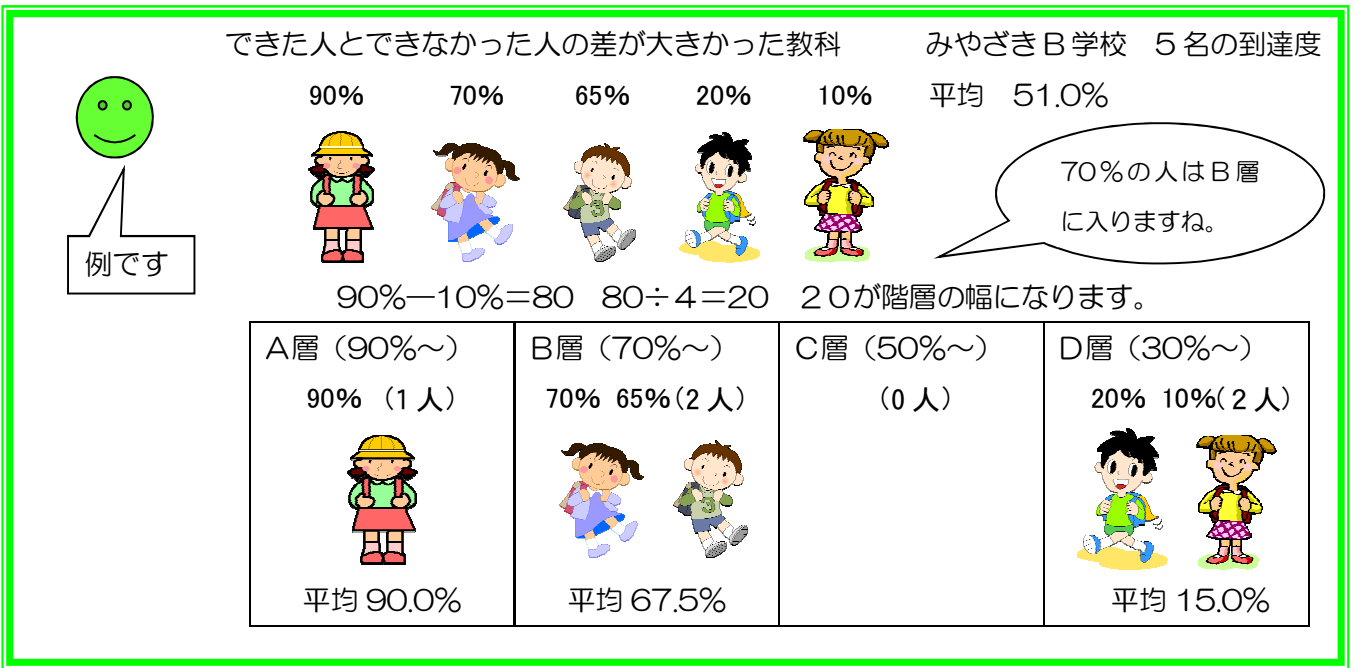
- A層～D層の値は、同じ教科や教科どうしにおける定着の違いを比べるための目印になるものです。

A層～D層ってどうやって求めているの？

簡潔に言うと、最高点と最低点の範囲を上位から4等分して、A～Dとしています。

- 教科ごとに個人の正答率を出して、集団ごとに最高点と最低点の範囲を求めます。
- 求めた範囲を4等分して、階層を決めます。最も高い層から順に、ABCD層となります。





A層~D層は、教科別の、個人の正答率を使ったクラス分けのようなものです。単純に人数で均等に分けたものではありません。

A層~D層の分け方はいくつあるの？

教科ごとで、A層~D層をそれぞれ求めています。つまり、下の表のように、小学校は4通り、中学校は5通りあります。

		A層	B層	C層	D層
小学校	国語				
	社会				
	算数				
	理科				

		A層	B層	C層	D層
中学校	国語				
	社会				
	数学				
	理科				
	英語				

教科ごとの分け方は、教科ごとの集計システムの各資料及び支援システムの各資料で利用されています。

A層～D層の数値でどんなことがわかるの？

集計システム【資料1】では

県全体の各層を軸として、その中に各所属の児童生徒が何%いるのかがわかります。

集計システム【資料2、3】では

個人の正答率が、県全体のA層～D層のどの階層に入っているかがわかります。

※印の意味 A層…◎（よくできる） B層…○（できる）
 C層…△（ややできる） D層…▲（がんばろう）

支援システム【資料1】では

県全体の各層を軸として、その中における各所属の児童生徒の正答率がわかります。

支援システム【資料2】では

県全体の各層を軸として、その中における各所属の児童生徒の正答した割合がわかります。

どんなところを見て分析すれば、何がわかるの？

【集計システム資料1では】

- 県全体のA層～D層に、何%の児童生徒がいるかによって、できた教科とできなかった教科がわかります。
- A層～D層の割合を、教科で比べると、教科によって、上位層と下位層のどちらが多い傾向にあるかがわかります。

【支援システム資料1では】

- 分類・観点・領域の各項目において、平均正答率を比べると、教科別の、できた（できなかった）分類・観点・領域がわかります。

【支援システム資料2では】

- 各設問の正答率が、高い（低い）ことで、できた（できなかった）問題がわかります。
- A層とD層の差が大きい問題は、できた児童生徒とできなかった児童生徒の差が大きい傾向の問題であることがわかります。